

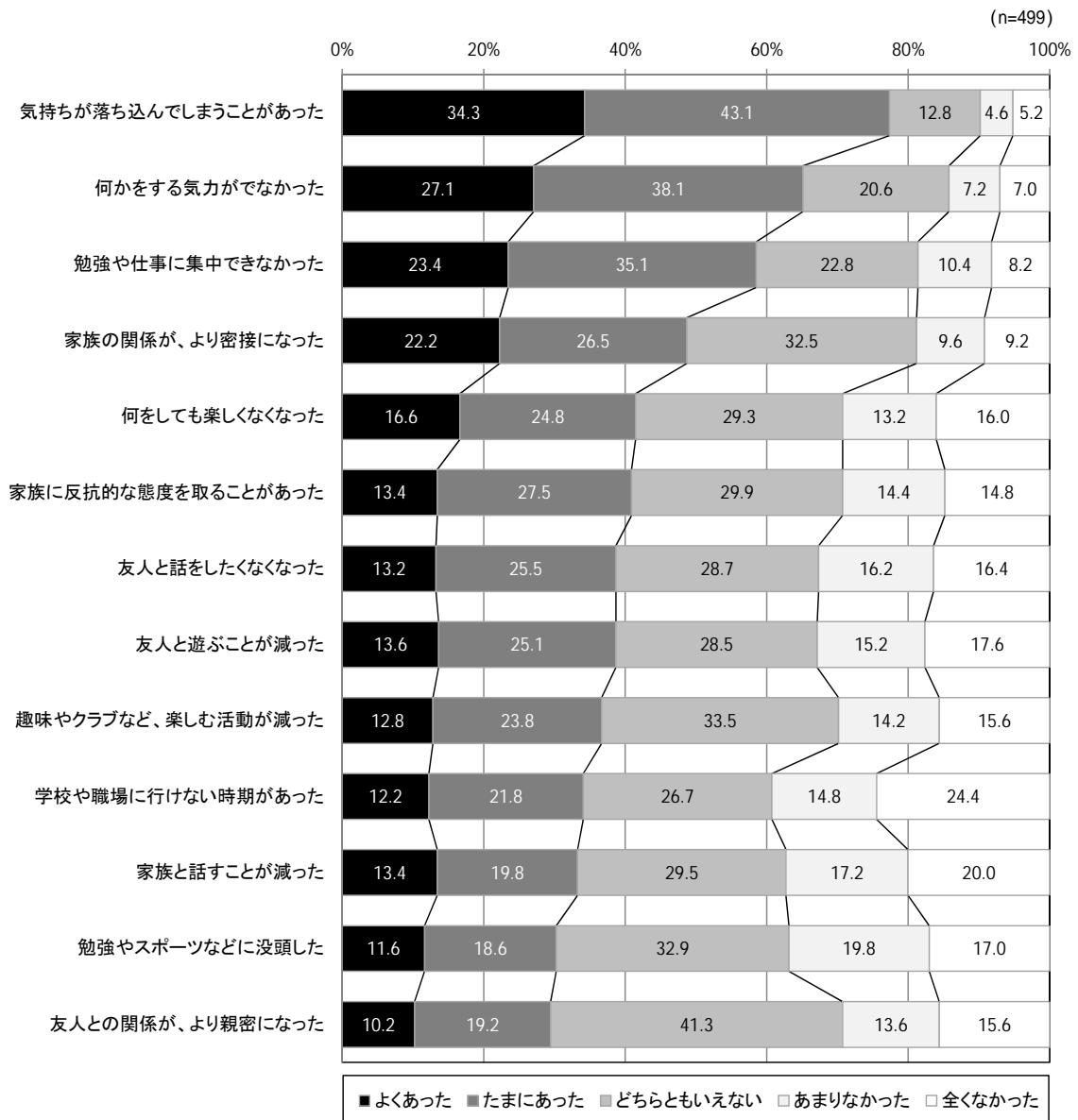
## 7. 行動面の変化

### (1) 行動面の変化(全体)

問 41：ご家族を事故で亡くされてから、以下のような行動面の変化がこれまでにありましたか。

事故から現在までに経験した行動面での変化について、「あった」とする回答(「よくあった」「たまにあった」の合計)が多いものは、「気持ちが落ち込んでしまうことがあった」(77.4%)、「何かをする気力がでなかった」(65.2%)、「勉強や仕事に集中できなかった」(58.5%)といった項目であった。気分が落ち込むことや、気力がわからない、集中できないといったことは、過半数が経験しており、交通事故で家族を亡くした子どもにおいて、起きやすい行動面の変化と考えられる。

図表 6-7-1 経験した行動面の変化



また、「あった」とする回答は「家族の関係が、より密接になった」が48.7%となっており、約半数は事故後に家族関係が密接になったと回答している。他方、「家族に反抗的な態度をとることがあった」とする回答は40.9%となっており、反抗的な態度は約4割程度にみられている。

活動が消極的になる傾向について「あった」とする回答は「何をしても楽しくなくなった」(41.4%)、「友人と話をしたくなくなった」(38.7%)、「友人と遊ぶことが減った」(38.7%)、「趣味やクラブなど、楽しむ活動が減った」(36.6%)という項目にも多い。また、「学校や職場にいけない時期があった」については、34.0%が「あった」と回答しており、3割強がそのような経験をしている。

このように、家族を交通事故で亡くした後、様々な行動面の変化がみられており、特に「気持ちが落ち込んでしまうことがあった」「何かをする気力がでなかった」「勉強や仕事に集中できなかった」という特徴は、平成22年度調査においても上位項目であり、交通事故で家族を亡くした子どもに起きやすい変化と考えられる。

また、自由記述からは、主に以下のような意見がみられている。

#### 【家族の関係が密接になった】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・家族みんなが以前よりまして仲が良くなった、協力し合うようになった。	女性	20代	7	兄
・家族、きょうだいの仲が良く、自慢の家族だと思っている。	女性	20代	4	母親
・親戚づきあいが密接になった(葬儀等でお世話になった)。	女性	30代	17	妹

#### 【気持ちが落ち込んでしまうことがあった】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・楽しいと思えたことが楽しく出来なくなってしまった。今思えば、軽度のうつだったかもしれない。外に出ることが減ったり、食事の量が減った。	女性	20代	16	妹
・積極的になろうと思っても心境的に無理だった。	男性	20代	10	妹
・よく泣いていました。	女性	30代	14	兄

#### 【気力がなくなった】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・両親が事故の対応が終わった後、無気力、脱力感に襲われていたような。	女性	30代	3	兄
・やる気がなくなり、どうでもいいわけではないが、どうしたらいいかわからない不安。	女性	20代	11	兄

#### 【何をしても楽しくなくなった】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・楽しめなくなった。	女性	10代	16	妹
・なにも楽しくない。	女性	20代	13	弟

【家族に反抗的な態度を取ることがあった】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・良くないグループと付き合いようになり家に居ない事が増えていきました。喜怒哀楽が激しくなり全てがどうしても良かった。	女性	20代	15	兄
・兄がバイクで亡くなったので、母親にバイクは乗ったらだめだと言われ、免許を取る事が出来なかったんですが、兄が亡くなって一か月がたった頃、友達のをバイクを借りて乗り、無免許で捕まりました。兄が亡くなってからしばらくは、物事を冷静に考えられなくなっていました。	女性	20代	15	兄
・奇異な行動、奇声、暴れる、空事、妄想。	男性	20代	17	兄

【友人と話をすることや、遊ぶことが減った】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・人間関係について、人とのつながりを大事に思えず、もの凄く刹那的なものになっていった。友達が出来てもどこか距離を置いていて、親友と言える関係を築けなかったし、人が自分の心の領域に入ってくるのが不快だった。	女性	30代	5	父親
・あまり自発的に意見や気持ちを表に出せなくなっていました。なので外出などは自然と控えていましたし、友人からの誘いもありましたが、断わり気味で、友人とも当たり障りない関係を継続していこうという気持ちが強かったと思います。	男性	20代	17	弟
・友人と遊びづらくなった。友達を家に呼べなかった(いつも散らかっていたし、汚くて)。	女性	30代	15	母親
・人と距離を置くようになった。	女性	20代	14	父親

【ひきこもりがちになった】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・学校など外出が必要な時以外は、ひきこもることが多くなった。	男性	20代	15	姉
・家にいて閉じこもる事が多かったです。	女性	20代	13	父親
・遊びに行くのが減りました。	女性	20代	2	姉
・外で遊ばずに、家にひきこもっていた。	女性	20代	6	兄

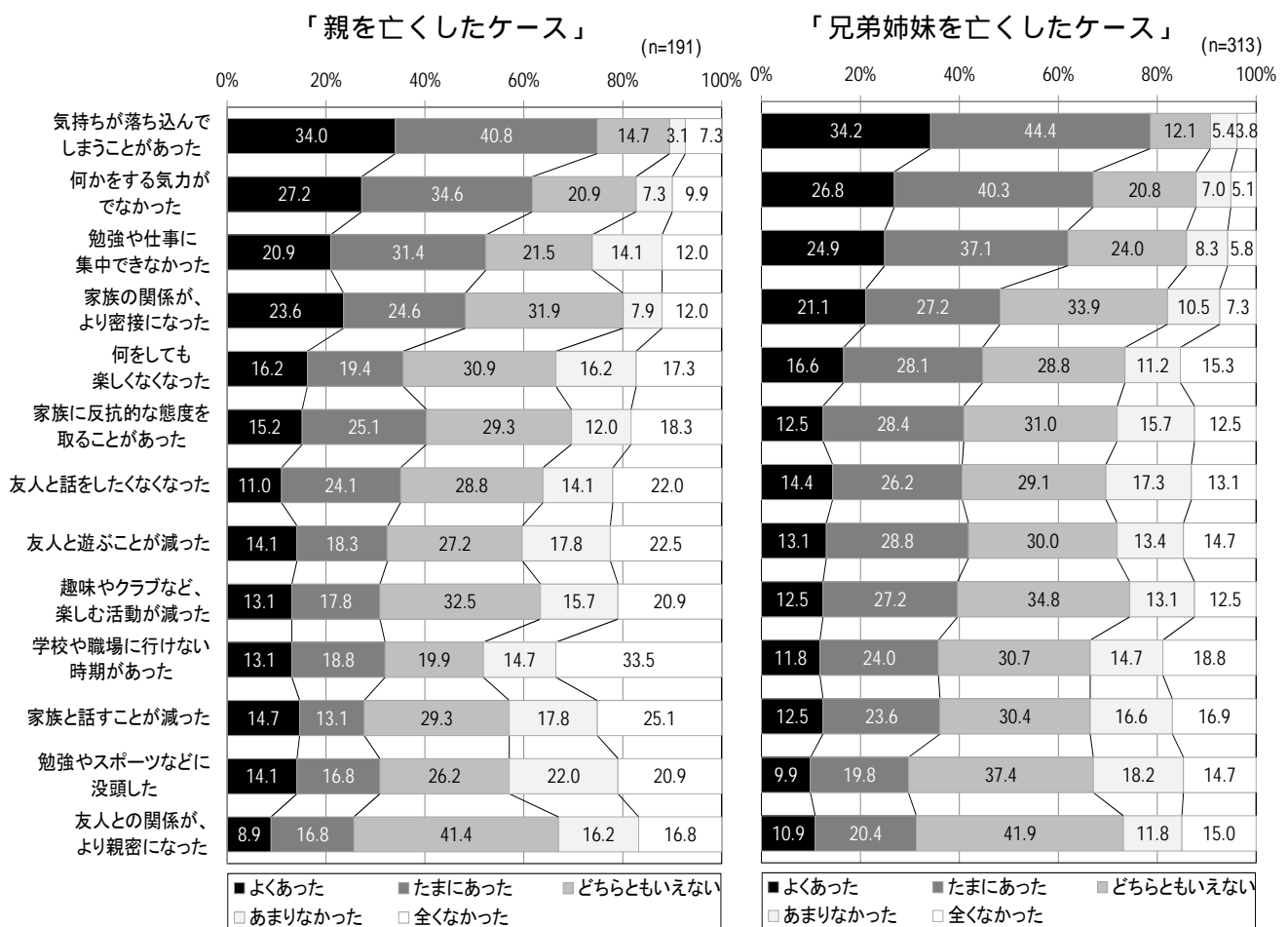
【家族と話すことが減った】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・家にいるのがつらくて、なかなか家に帰らなくなった。	女性	20代	14	父親
・家に居たら思い出すし、家族の雰囲気も重いので、外に出ようとした。	女性	30代	17	兄

(2) 行動面の変化(亡くした家族別)

亡くした家族別では、兄弟姉妹を亡くしたケースのほうが、行動面に変化が出やすい傾向が示されている。特に、「勉強や仕事に集中できなかった」「何をしても楽しくなかった」「友人と遊ぶことが減った」「趣味やクラブなど、楽しむ活動が減った」「家族と話すことが減った」については、「あった」とする回答(「よくあった」「たまにあった」の合計)が、「兄弟姉妹を亡くしたケース」のほうが「親を亡くしたケース」よりも10%近く多くなっている。子どもにとって兄弟姉妹は非常に身近な存在であることから、そのような対象がいなくなってしまうことで、より行動面の変化が出やすい可能性が考えられる。

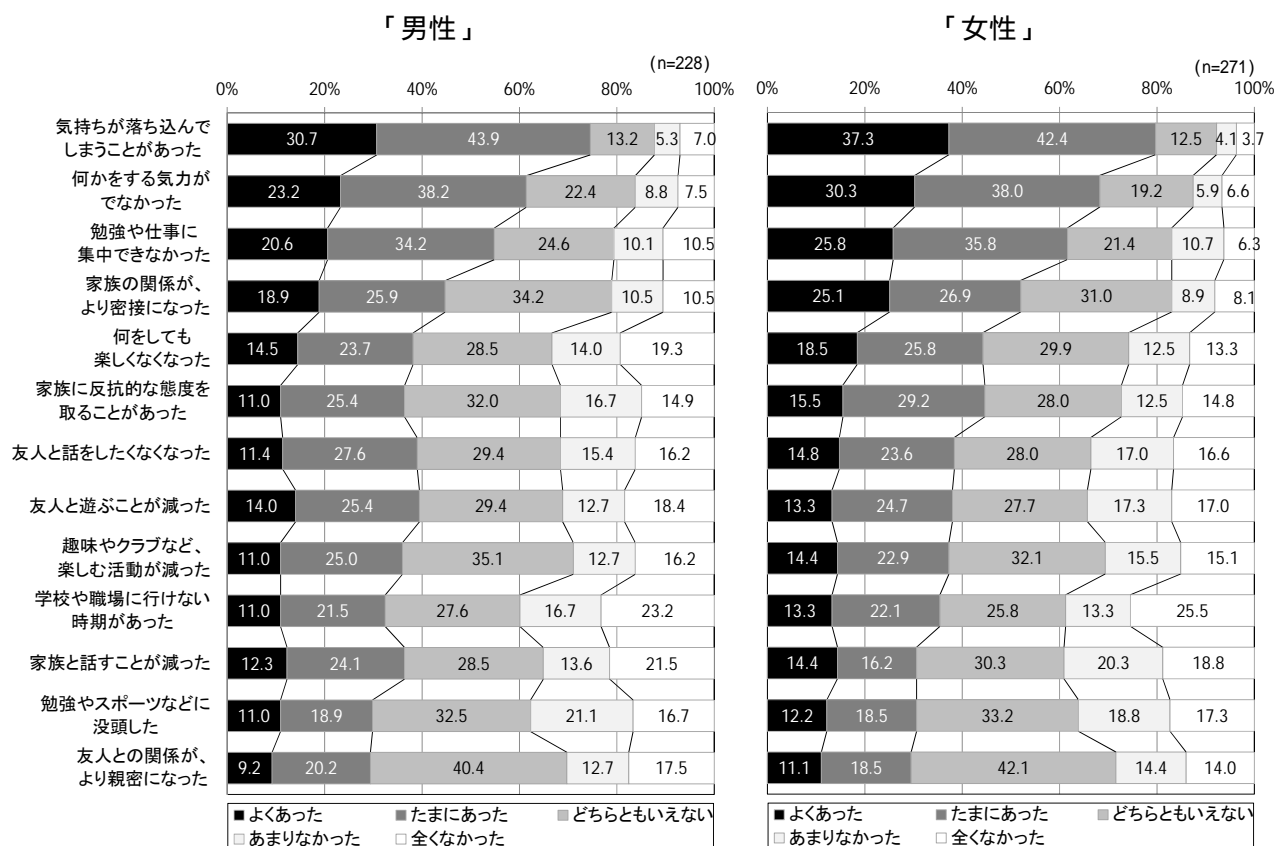
図表 6-7-2 経験した行動面の変化(亡くした家族別)



(3) 行動面の変化(男女別)

男女別では、女性のほうがあったと回答する傾向がみられている。女性のほうが男性よりも多い行動の変化は、「何かをする気力がでなかった」「勉強や仕事に集中できなかった」「家族の関係が、より密接になった」「何をしても楽しくなくなった」「家族に反抗的な態度を取ることがあった」等があげられる。他方、男性のほうが女性よりも多い行動の変化は、「家族と話すごとが減った」等となっている。

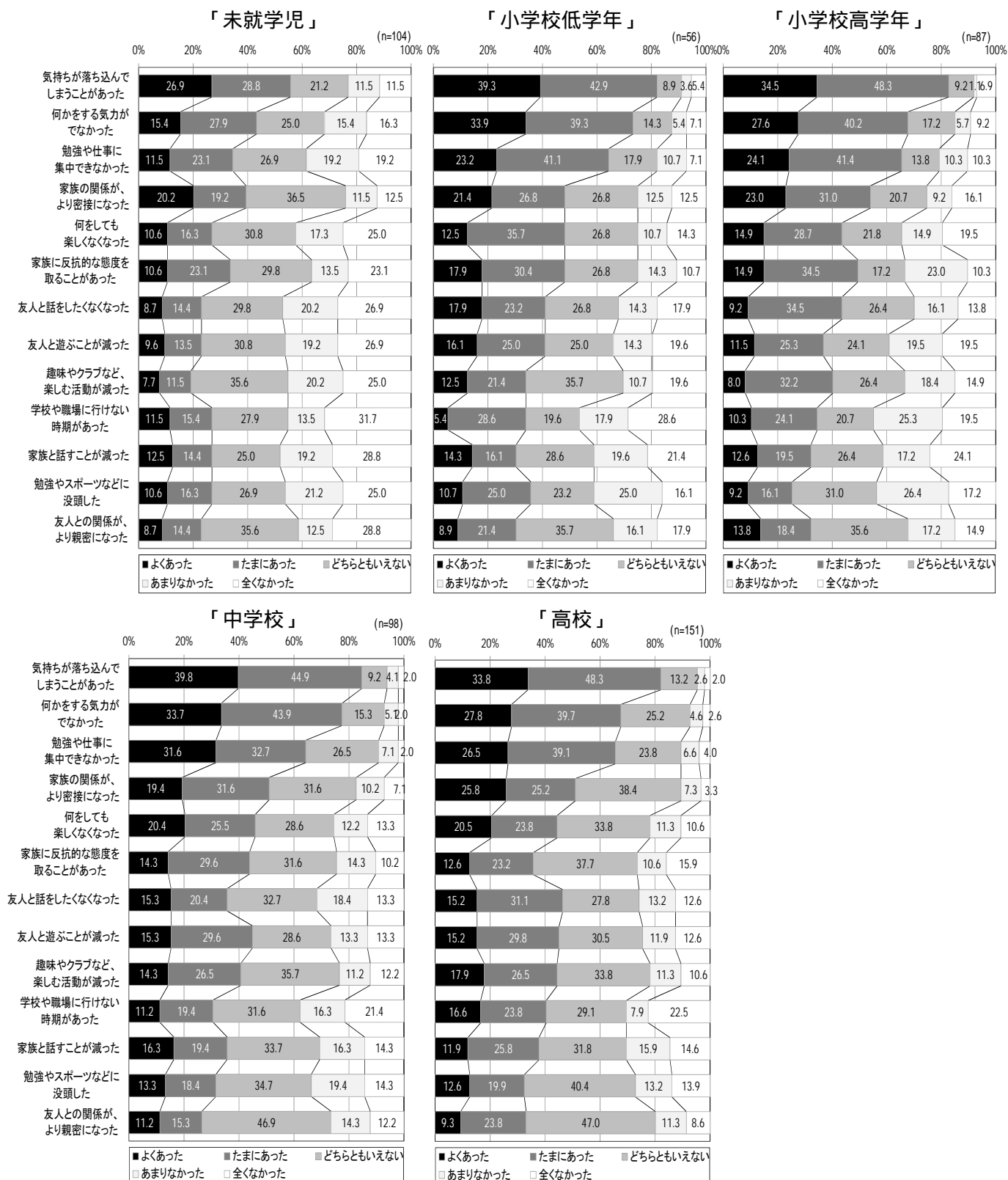
図表 6-7-3 経験した行動面の変化(男女別)



(4) 行動面の変化(事故時の就学状況別)

事故時の就学状況別の分析では、未就学児を除いて、ほぼ同じような結果となっている。ただし、未就学児の場合は事故時に幼かったことから、そのような変化に自分自身が気づかなかった可能性もある。

図表 6-7-4 経験した行動面の変化(事故時の就学状況別)



## 8. 「心身の困難さや行動面の変化」に関する分析

ここからは、「心身の困難さや行動面の変化（「気持ちの面での困難さ」や「身体面での困難さ」「行動面の変化）」について、さらに詳細に分析する。

### （1）気持ちの面での困難さ（問33）

#### 因子分析の結果

まず、気持ちの面での困難さに関する項目について、因子分析によりその構造を明らかにし、同質の項目をまとめて得点化し、属性別の差異を検討する。まず、各項目について5段階（「とても感じていた（5点）」「やや感じていた（4点）」「どちらともいえない（3点）」「あまり感じていなかった（2点）」「感じていなかった（1点）」）として、得点化を行った。10項目について主因子法による因子分析を行い、2因子を抽出した。因子軸の回転には直交回転（バリマックス法）を用い、結果の解釈には因子負荷量を適用している。なお、複数の因子に負荷量の高い2項目を削除し、残った項目について因子分析の作業をもう一度繰り返したところ、図表6-8-1に示すような結果を得た。各因子の項目の合計得点を項目数で割ったものを、各因子の得点として算出し、分析に使用している。

図表6-8-1 気持ちの面での困難さの因子分析結果（主因子法、バリマックス回転）

		I	II
自責・不自信	事故に遭ったのは自分のせいだと責める気持ち	.773	.158
	他人が信じられないという気持ち	.751	.221
	遺された家族を責めるような気持ち	.703	.188
	自分だけ楽しんではいけないという気持ち	.648	.294
	自分も死ぬのではないかとこの気持ち	.624	.184
	なぜ事故が起こったのかと社会を責める気持ち	.596	.256
不安・焦燥感	自分ががんばらなくてはという気持ち	.143	.737
	将来についての漠然とした不安	.307	.661
	因子寄与率	36.67	15.95
	アルファ係数	.86	.69

※表中に記載している数値は因子負荷量である。

<削除項目>

遺された家族も死んでしまうのではないかとこの気持ち  
そっとしておいてほしいという気持ち

#### 因子分析について

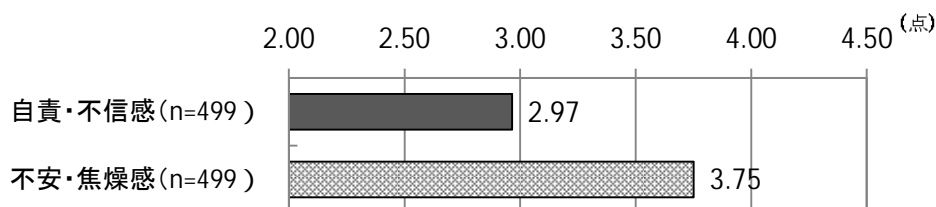
- ・因子分析とは、相互の質問項目が関連しあっている潜在的な要因を探し出すための分析である。例えば、「気持ちの面での困難さ」の因子分析では、上から6つの項目には、潜在的に「自責・不自信」の要因が関連していると考えられる。また下から2つの項目には、潜在的に「不安・焦燥感」の要因が関連していると考えられる。
- ・主因子法とは、因子分析の結果として第1因子から順に因子寄与率が最大となるように因子を抽出する方法である。
- ・直交回転（バリマックス法）とは、因子の構造が単純になるように、軸を回転させる方法である。
- ・因子負荷量とは、どの程度潜在的な因子（この場合は「自責・不自信」「不安・焦燥感」と関連しているかの程度を表すもので、数字の値が高いほど、潜在的な因子との関連性が高いことを表している。

第 因子は、「事故に遭ったのは自分のせいだと責める気持ち」「他人が信じられないという気持ち」「遺された家族を責めるような気持ち」といった自分や周囲に対して責める気持ちや他者に対する不信感を表す項目に負荷量が高いことから、＜自責・不信感＞とする。第 因子は、「自分がかんばらなくてはという気持ち」「将来についての漠然とした不安」の項目に負荷量が高いことから、＜不安・焦燥感＞とする。

#### 全体

全体の平均値を算出した結果、＜自責・不信感＞は 2.97、＜不安・焦燥感＞は 3.75 となっており、＜不安・焦燥感＞の得点が高いことがわかる。交通事故で家族を亡くした子どもは、特に「自分がかんばらなくてはという気持ち」や「将来についての漠然とした不安」といった、不安・焦燥感を持ちやすいことが示された。

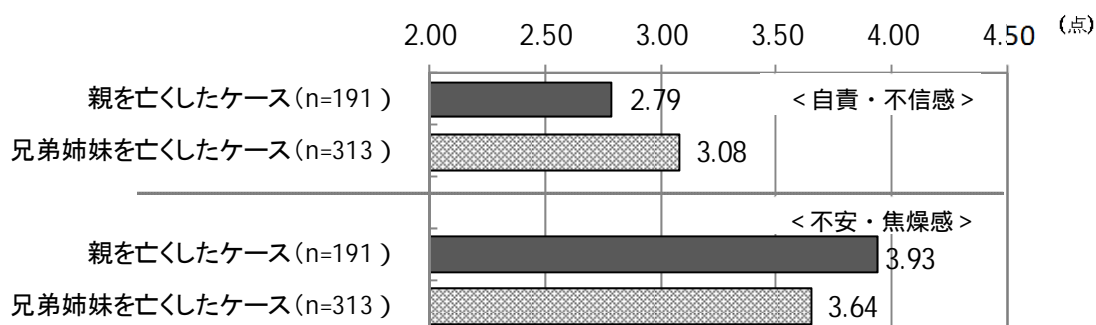
図表 6-8-2 気持ちの面での困難さの平均値



#### 亡くした家族別

亡くした家族別の平均値を検討したところ、＜自責・不信感＞は「兄弟姉妹を亡くしたケース」が「親を亡くしたケース」に比べてやや高い傾向にある。また、＜不安・焦燥感＞は「親を亡くしたケース」が「兄弟姉妹を亡くしたケース」に比べてやや高い傾向にある。

図表 6-8-3 気持ちの面での困難さの平均値 (亡くした家族別)



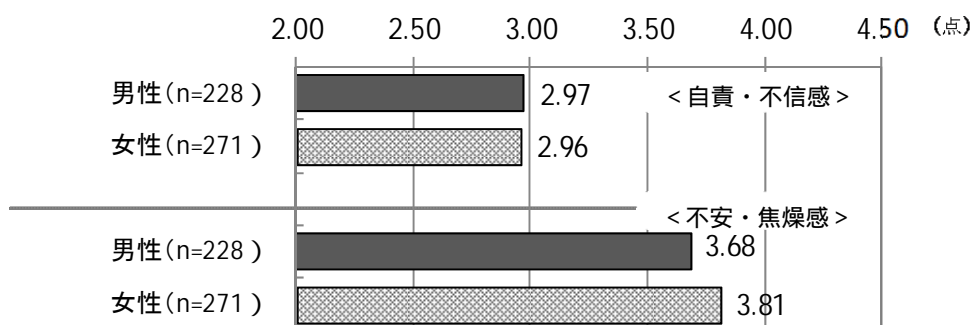
親と兄弟姉妹を同時に亡くしたケースがあることから、親を亡くしたケースの人数と兄弟姉妹を亡くしたケースの人数の合計は、全体の人数と一致しない。



## 男女別

男女別の平均値を検討したところ、<自責・不信感> <不安・焦燥感>のいずれも、男女別に顕著な差異はみられていない。

図表 6-8-4 気持ちの面での困難さの平均値（男女別）



## (2) 身体面での困難さ (問 37)

### 因子分析の結果

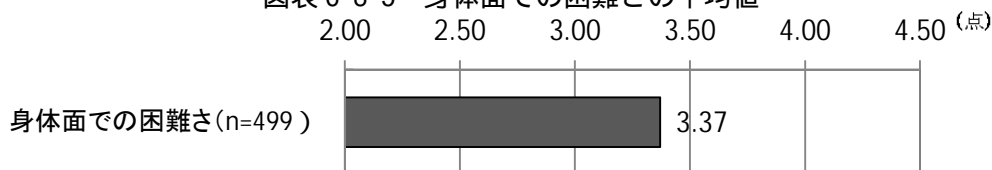
身体面での困難さに関する項目について、まず5段階(「よくあった(5点)」「たまにあった(4点)」「どちらともいえない(3点)」「あまりなかった(2点)」「全くなかった(1点)»)として、得点化を行い、4項目について主因子法による因子分析を行ったところ、1因子で収束した。アルファ係数は.93であった。4項目の合計得点を項目数で割ったものを、<身体面での困難さ>の得点として算出し、分析に使用している。

<身体面での困難さの項目> ・体調が悪くなったこと  
・眠れなくなったこと  
・疲労感が強かったこと  
・気力や意欲、物事への関心がなくなった

### 全体

全体の平均値を算出した結果、<身体面での困難さ>は3.37となっており、気持ちの面での困難さの<不安・焦燥感>に次いで得点が高いことがわかる。交通事故で家族を亡くした子どもにとっては、身体面での困難さも起きやすいことが示された。

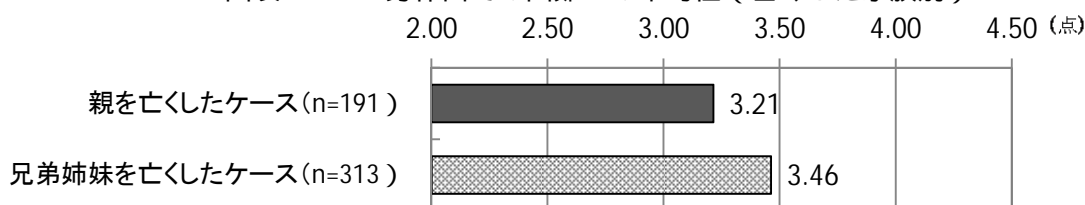
図表 6-8-5 身体面での困難さの平均値



### 亡くした家族別

亡くした家族別の平均値を検討したところ、<身体面での困難さ>は「兄弟姉妹を亡くしたケース」が「親を亡くしたケース」に比べてやや高い傾向にある様子が示されている。

図表 6-8-6 身体面での困難さの平均値 (亡くした家族別)

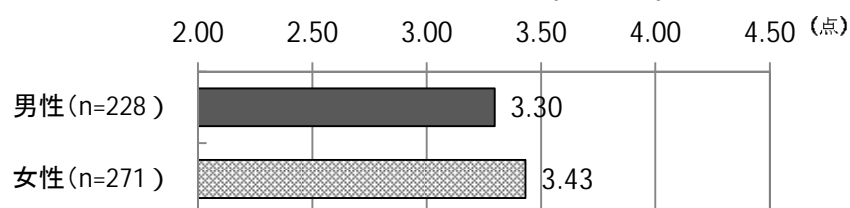


親と兄弟姉妹を同時に亡くしたケースがあることから、親を亡くしたケースの人数と兄弟姉妹を亡くしたケースの人数の合計は、全体の人数と一致しない。

### 男女別

男女別の平均値を検討したところ、<身体面での困難さ>には男女別に顕著な差異はみられていない。

図表 6-8-7 身体面での困難さの平均値 (男女別)



(3) 行動面での変化(問41)

因子分析の結果

行動面の変化に関する項目について、段階(「よくあった(5点)」「たまにあった(4点)」「どちらともいえない(3点)」「あまりなかった(2点)」「全くなかった(1点)」)として得点化を行い、13項目について主因子法による因子分析を行い、3因子を抽出した。因子軸の回転には直交回転(バリマックス法)を用い、結果の解釈には因子負荷量を適用している。なお、複数の因子に負荷量の高い1項目を削除し、残った項目について因子分析の作業をもう一度繰り返したところ、図表6-8-8に示すような結果を得た。各因子の項目の合計得点を項目数で割ったものを、各因子の得点として算出し、分析に使用している。

第1因子は、「友人と遊ぶことが減った」「友人と話をしなくなった」「趣味やクラブなど、楽しむ活動が減った」「家族と話すことが減った」といった、友人や家族との会話の減少や、友人との遊びやクラブ活動など、楽しむ活動が低下することを表す項目に負荷量が高いことから、<活動面の低下>とする。第2因子は、「何かをする気力がでなかった」「気持ちが落ち込んでしまうことがあった」「勉強や仕事に集中できなかった」といった、気力や気持ち落ち込み、集中力の低下といった項目に負荷量が高いことから、<気力面の低下>とする。第3因子は、「友人との関係が、より親密になった」「勉強やスポーツなどに没頭した」「家族の関係が、より親密になった」といった、家族や友人といった対人関係の親密性の变化や勉強・スポーツといった活動性の増加といった項目に負荷量が高いことから、<対人関係や活動の増加>とする。

図表6-8-8 行動面の変化の因子分析結果(主因子法、バリマックス回転)

		I	II	III
活動面の低下	友人と遊ぶことが減った	.784	.297	.140
	友人と話をしたくなかった	.774	.249	.150
	趣味やクラブなど、楽しむ活動が減った	.770	.351	.194
	家族と話すことが減った	.767	.155	.219
	学校や職場に行けない時期があった	.553	.216	.339
	家族に反抗的な態度を取ることがあった	.540	.248	.282
気力面の低下	何かをする気力がでなかった	.325	.880	.172
	気持ちが落ち込んでしまうことがあった	.282	.749	.294
	勉強や仕事に集中できなかった	.443	.716	.230
対人関係や活動の増加	友人との関係が、より親密になった	.258	.144	.688
	勉強やスポーツなどに没頭した	.317	.084	.631
	家族の関係が、より密接になった	.026	.263	.500
因子寄与率		29.50	19.59	13.44
アルファ係数		.90	.91	.69

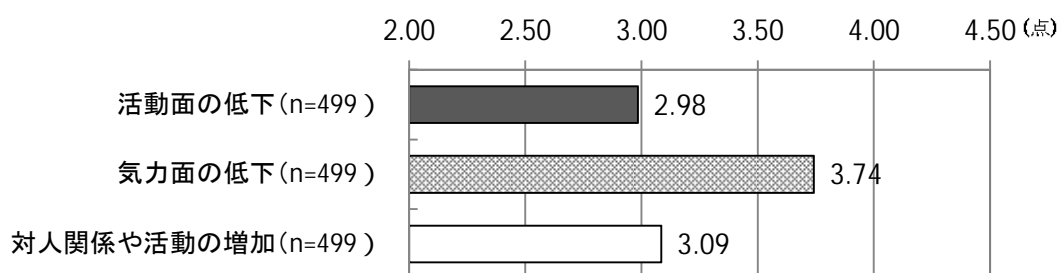
※表中に記載している数値は因子負荷量である。

<削除項目>  
何をしてもしなくなかった

## 全体

全体の平均値を算出した結果、＜活動面の低下＞は 2.98、＜気力面の低下＞は 3.74、＜対人関係や活動の増加＞は 3.09 となっており、＜気力面の低下＞の得点が高いことがわかる。交通事故で家族を亡くした子どもにとっては、特に「何かをする気力がでなかった」「気持ちが落ち込んでしまうことがあった」「勉強や仕事に集中できなかった」といった、気力面の低下が起きやすいことが示された。

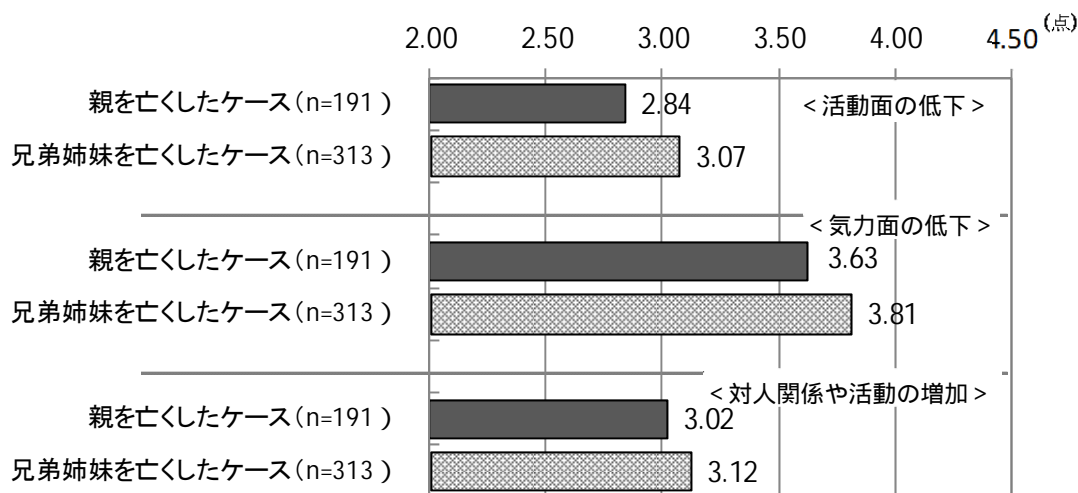
図表 6-8-9 行動面の変化の平均値



## 亡くした家族別

亡くした家族別の平均値を検討したところ、特に＜活動面の低下＞について、「兄弟姉妹を亡くしたケース」が「親を亡くしたケース」に比べてやや高い傾向が示されているが、＜気力面の低下＞や＜対人関係や活動の増加＞については、亡くした家族別に顕著な差異はみられていない。なお、＜気力面の低下＞は、亡くした家族にかかわらず得点が高くなっている。

図表 6-8-10 行動面の変化の平均値（亡くした家族別）

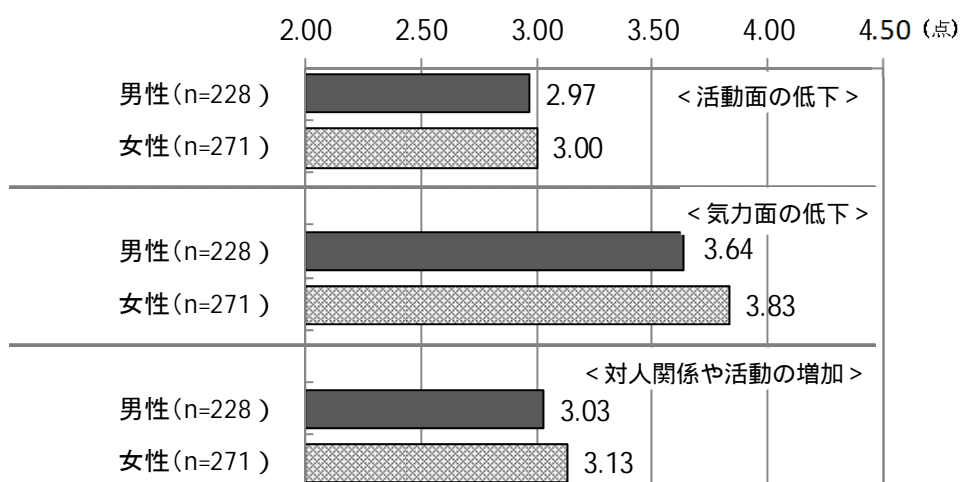


親と兄弟姉妹を同時に亡くしたケースがあることから、親を亡くしたケースの人数と兄弟姉妹を亡くしたケースの人数の合計は、全体の人数と一致しない。

## 男女別

男女別の平均値を検討したところ < 気力面の低下 > については、女性のほうが男性よりもやや高い傾向が示されているが、 < 活動面の低下 > や < 対人関係や活動の増加 > については、顕著な男女差はみられていない。

図表 6-8-11 行動面の変化の平均値（男女別）



## 9. 「心身の困難さや行動面の変化」に関する情報

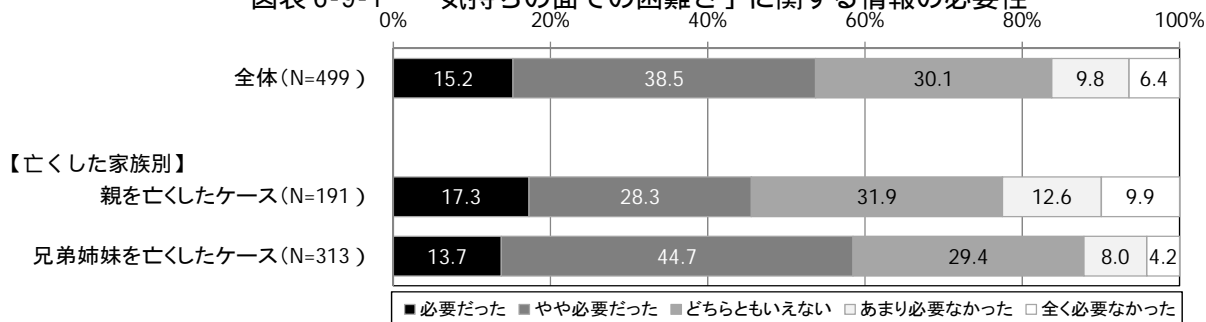
### (1) 「気持ちの面での困難さ」に関する情報

#### 「気持ちの面での困難さ」に関する情報の必要性

問 35：ご家族を交通事故で亡くされた後に、「気持ちの面での困難さ」に関して、「どのような気持ち  
 ちが起きやすいか」「どう対処すればよいか」といった情報が必要でしたか。

家族を交通事故で亡くした後に感じる「気持ちの面での困難さ」に関する情報の必要性について、「必要だった」とする回答（「必要だった」「やや必要だった」の合計）は全体の53.7%となっており、過半数が「必要だった」と回答している。また、亡くした家族別では、「兄弟姉妹を亡くしたケース」のほうが、「必要だった」とする回答率が高い。このことは、親を亡くしたケースよりも兄弟姉妹を亡くしたケースのほうが、気持ちの面での困難さについて、多くの情報を必要としている可能性が考えられる。

図表 6-9-1 「気持ちの面での困難さ」に関する情報の必要性

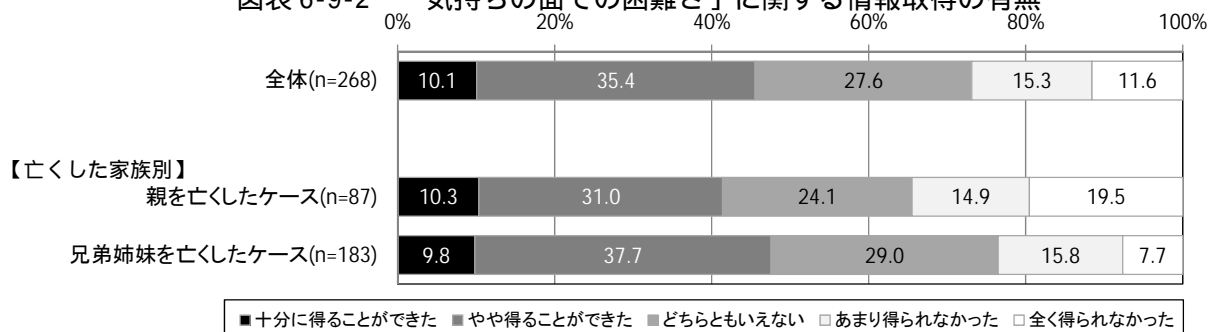


#### 「気持ちの面での困難さ」に関する情報取得の有無（情報が必要だった者のみ）

問 36：ご家族を交通事故で亡くされた後に、「気持ちの面での困難さ」に関して、「どのような気持ち  
 ちが起きやすいか」「どう対処すればよいか」といった情報を得ることができましたか。

家族を交通事故で亡くした後に感じる「気持ちの面での困難さ」に関する情報取得の有無について、前問で「そのような情報が必要だった」「やや必要だった」と回答した者を対象に分析している。その結果、「十分に得ることができた」とする回答は少なく、全体の10.1%となっている。また、亡くした家族別では、「親を亡くしたケース」のほうが、「得られなかった」とする回答（「あまり得られなかった」「全く得られなかった」の合計）が多く、情報を得にくいことが推察される。

図表 6-9-2 「気持ちの面での困難さ」に関する情報取得の有無



親と兄弟姉妹を同時に亡くしたケースがあることから、親を亡くしたケースの人数と兄弟姉妹を亡くしたケースの人数の合計は、全体の人数と一致しない。

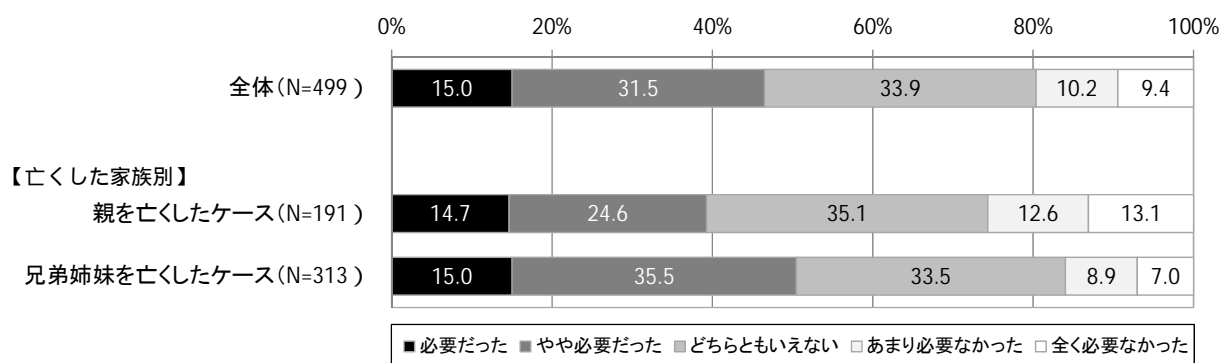
(2) 「身体面での困難さ」に関する情報

「身体面での困難さ」に関する情報の必要性

問 39：ご家族を交通事故で亡くされた後に、「身体面での困難さ」に関して「どのような変化が起きやすいか」「どう対処すればよいか」といった情報が必要でしたか。

家族を交通事故で亡くした後に感じる「身体面での困難さ」に関する情報の必要性について、「必要」とする回答（「必要だった」「やや必要だった」の合計）は全体の46.5%となっている。また、亡くした家族別では「兄弟姉妹を亡くしたケース」のほうが「必要」とする回答率が高い傾向にある。前述のように、親を亡くしたケースよりも兄弟姉妹を亡くしたケースのほうが身体面での困難さを感じやすい傾向がみられていたことから、そのような情報の必要性も兄弟姉妹を亡くしたケースのほうが高い可能性がある。

図表 6-9-3 「身体面での困難さ」に関する情報の必要性



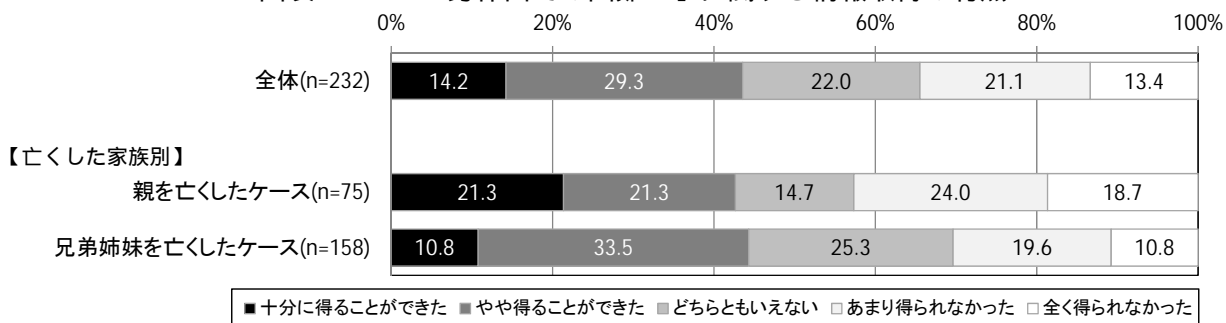
「身体面での困難さ」に関する情報取得の有無（情報が必要だった者のみ）

問 40：ご家族を交通事故で亡くされた後に、「身体面での困難さ」に関して「どのような変化が起きやすいか」「どう対処すればよいか」といった情報を得ることができましたか。

家族を交通事故で亡くした後に感じる「身体面での困難さ」に関する情報取得の有無について、前問で「そのような情報が必要だった」「やや必要だった」と回答した者を対象に分析している。その結果、「十分に得ることができた」とする回答は少なく、全体の14.2%である。

また、亡くした家族別では、「親を亡くしたケース」のほうに「得られなかった」とする回答が多いが、「十分に得ることができた」とする回答も2割強となっていることから、得られているケースと得られていないケースにやや分かれる傾向がみられている。

図表 6-9-4 「身体面での困難さ」に関する情報取得の有無



親と兄弟姉妹を同時に亡くしたケースがあることから、親を亡くしたケースの人数と兄弟姉妹を亡くしたケースの人数の合計は、全体の人数と一致しない。

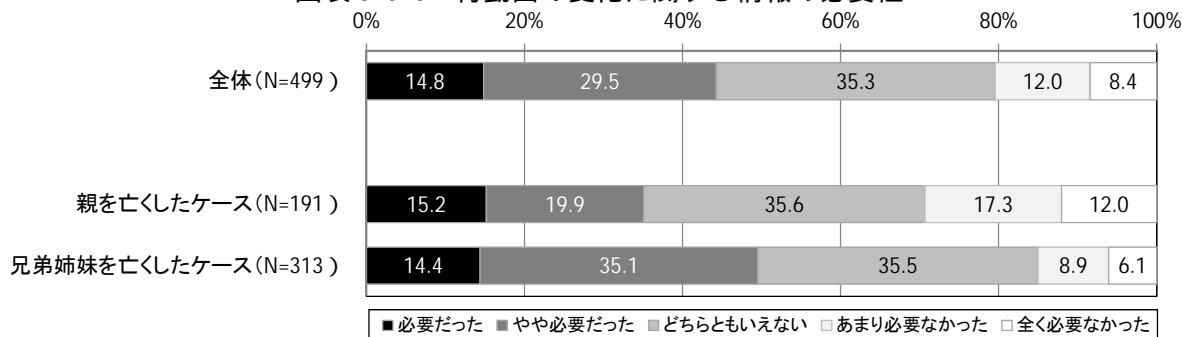
(3) 「行動面の変化」に関する情報

「行動面の変化」に関する情報の必要性

問 43：ご家族を交通事故で亡くされた後に、「行動面の変化」に関して「どのような変化が起きやすいか」「どう対処すればよいか」といった情報が必要でしたか。

家族を交通事故で亡くした後の「行動面での変化」に関する情報の必要性について、「必要」とする回答（「必要だった」「やや必要だった」の合計）は、全体の44.3%となっており、4割強において必要とされている。また、亡くした家族別では、「兄弟姉妹を亡くしたケース」のほうが、必要だったとする回答率が高く、約半数にのぼっている。前述のように、親を亡くしたケースよりも兄弟姉妹を亡くしたケースのほうが、行動面の変化がある傾向がみられていたことから、そのような情報の必要性も、兄弟姉妹を亡くしたケースのほうが高い可能性がある。

図表 6-9-5 行動面の変化に関する情報の必要性



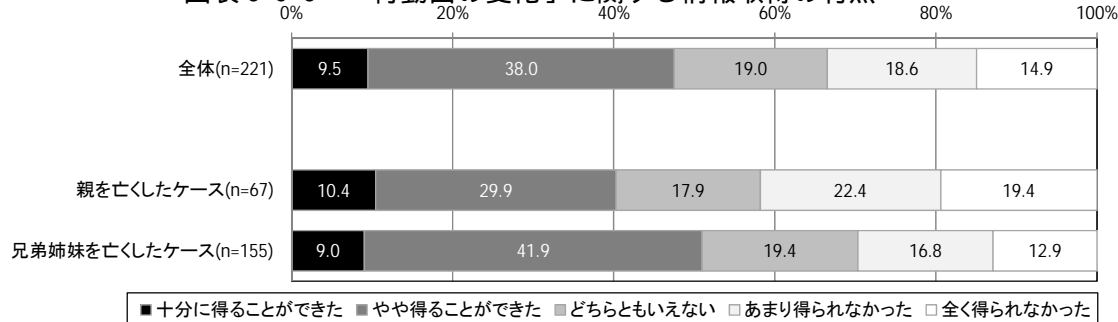
「行動面の変化」に関する情報取得の有無（情報が必要だった者のみ）

問 44：ご家族を交通事故で亡くされた後に、「行動面の変化」に関して、「どのような変化が起きやすいか」「どう対処すればよいか」といった情報を得ることができましたか。

家族を交通事故で亡くした後に感じる「行動面の変化」に関する情報取得の有無について、前問で「そのような情報が必要だった」「やや必要だった」と回答した者を対象に分析している。その結果、「十分に得ることができた」とする回答は少なく、全体の9.5%である。

また、亡くした家族別では、「親を亡くしたケース」のほうが、「得られなかった」とする回答が4割強となっている。しかし、「兄弟姉妹を亡くしたケース」であっても、3割弱が「得られなかった」と回答しており、このような情報を必要としていても得られていないケースが3~4割に上っている。

図表 6-9-6 「行動面の変化」に関する情報取得の有無



親と兄弟姉妹を同時に亡くしたケースがあることから、親を亡くしたケースの人数と兄弟姉妹を亡くしたケースの人数の合計は、全体の人数と一致しない。



(4) 「心身の困難さや行動面の変化」に関する情報の取得先

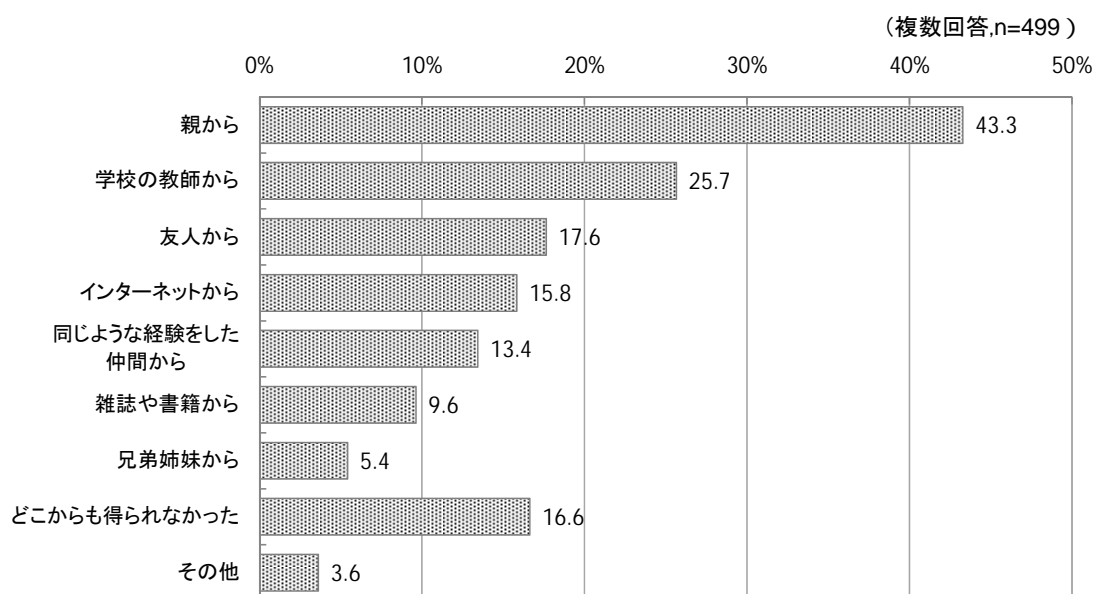
問 45：これまで回答したような「気持ちの面での困難さ」や「身体面での困難さ」「行動面の変化」に関する情報については、どこから得ましたか。

ここからは、これまで検討してきた「気持ちの面での困難さ」「身体面での困難さ」「行動面の変化」についてまとめて「心身の困難さや行動面の変化」とし、そのような事柄に関する情報について検討する。

「心身の困難さや行動面の変化」に関する情報の取得先については、「親から」(43.3%)が最も多く、そのような情報は、親から得られることが多い。また、「学校の教師から」(25.7%)、「友人から」(17.6%)、「インターネットから」(15.8%)、「同じような経験をした仲間から」(13.4%)の順となっており、そのような対象を経由して、情報を得ていることが示されている。

なお、その他の回答としては、「病院から」「医師から」「弁護士から」「支援団体の広報誌から」等の回答がみられている。

図表 6-9-7 「心身の困難さや行動面の変化」に関する情報の取得先



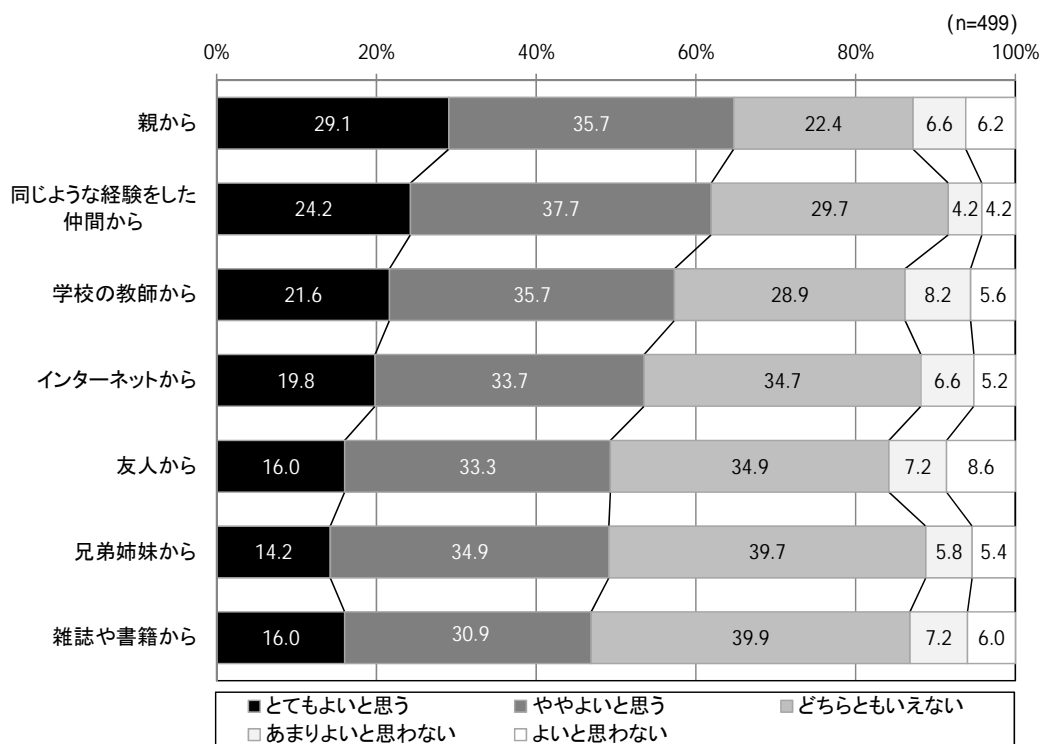
(5) 「心身の困難さや行動面の変化」に関する情報の取得先の希望

問 46：これまで回答したような「気持ちの面での困難さ」や「身体面での困難さ」「行動面の変化」に関する情報は、どこから得られることがよいと思いますか。

「心身の困難さや行動面の変化」に関する情報の取得先の希望について、「よいと思う」とする回答（「とてもよいと思う」「ややよいと思う」とする回答）は、「親から」（64.8%）が最も多く、そのような情報は、親から得られることが最も期待されている。また、「よいと思う」とする回答は、「同じような経験をした仲間から」（61.9%）、「学校の教師から」（57.3%）、「インターネットから」（53.5%）が多くなっており、そのような対象から得られることが期待されている。

なお、その他の希望についての自由記述の回答は、「病院から」「精神科医から」「弁護士から」「新聞から」「支援団体から」等がみられている。

図表 6-9-8 「心身の困難さや行動面の変化」に関する情報の取得先の希望



(6) 「心身の困難さや行動面の変化」が生じた場合の解決方法

問 47：ご家族を交通事故で亡くされた後、「気持ちの面での困難さ」や「身体面での困難さ」「行動面の変化」が生じた場合、どのようにして解決しましたか。

「心身の困難さや行動面の変化」が生じた場合の解決方法については、主に以下のような意見がみられている。

【自分自身の努力により解決】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・呼吸が苦しくなったときは、ただ治まるのを待った。心的なもので、自然解決に頼るしかなかった。気持ちが落ちているときは、好きなものを食べたり、絵を描いたりして何とか元気をだすようにしていた。反発心などは、成長していくにつれなくなって自然解決するにまかせた。	女性	18	6	妹
・本やインターネットなど自分が必要と思う情報を自分の意志で選ぶことで、すんなりと受け入れられた。他者からのアドバイスはうまくマッチしないことが多いので自分で選べる環境を与えること(パソコンや本を買える、借りられる環境)が大切。	女性	29	14	妹
・自分が人とはどこかズレてるなど思っていたが、それが何なのか、またどうしたらいいのかがよく分からなかったが、書籍やインターネットで調べるうちに、その原因の一つが父不在という事が分かり、それが分かっただけでも頭の中のモヤが少し晴れた気がする。	女性	30代	5	父親
・自分が強くならなくてはいけなかったから、自分で乗り越えた。大人は口先でしかものを言わないと、あのころは感じていたから。おかげで打たれ強くなった。	女性	30代	16	母親
・家族や周りの人と距離を置くようになり、人間不信になった。当時は自分の変化に気づくことが出来ず、数年後ぐらいから心理学の本等を読み、徐々に落ち着いた。	女性	20代	14	父親
・ポジティブになるしかなかった。	男性	20代	10	妹

【時間の経過により解決】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・腹立たしさや空しさなどのネガティブな感情を持つことが多くなった。両親や友人が何かと遊びに誘ってくれたりしたが、あまり乗り気にならなかった。こういったことは誰が、何が、というより時間が解決してくれることが多いと思う。	男性	20代	15	姉
・不安感が強くなり眠れなくなることが多くなったが、時間が解決すると信じてその気持ちに任せていた。	女性	20代	17	母親
・特に、どのようにして解決したという事はありません。ただ時間が過ぎれば、他のことに集中していれば、少しの間は忘れられる、というくらいです。	男性	20代	3	兄
・時間が経つにつれて落ち着いたんだと思います。特に何かをした事はなかったと思います。	女性	20代	15	兄
・気持ちは、ただがむしゃらに、精神的な困難さは何も解決しないと思う。時間が経つのを待たないといけないと思う。身体も時間がかかった。団体や書籍に助けられたことはないです。	女性	20代	17	母親
・気持ちの落ち込みの解決は時間に任せて、いつも通りに振る舞った。それで解決した。	男性	20代	14	姉
・気持ちの面に関しては、相手の代償も考えられるようになってからは、問題はなくなりました。やはり時間が経てば薄まるというのものもあるかもしれません。	男性	20代	13	兄

### 【家族の支えにより解決】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・壁にぶつかることは誰にでもあることだし、彼氏に振られても起こりうることなんだ、私だけが感じている苦しみじゃない、と思えるまで時間がかかったけど、家族になんでも話したし、答えてくれた。その場で答えが出なくても、しっかり悩んでる姿を素直に見せてくれたのが良かったんだと思う。	女性	30代	12	妹
・毎朝、家でホームルームを開くようになり、家族の絆が一層深まったこと。これによって自分の身は自分で守れるようになることが狙いです。	女性	30代	17	兄
・寝れなかったり、朝起き上がることが出来なかったことが多々あり、そんな時でも無理に学校に行かせようとしなかった母にはとても感謝している。学校に行っても、みんな普通に接してくれたことも感謝している。恋人の支えもとても大きかった。	女性	20代	17	兄
・自宅に籠ることが多かったので、ペットと触れあったり、家族と徐々に話し合う機会を設けるようにしました。家族での外出などもなるべく断わずにいました。また、インターネットなどもよく活用してチャットやソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)などの情報を収集していました。	男性	20代	17	弟
・姉に話を聞いてもらっていた。姉がいたから、つらい気持ちもわかってもらえたとし、父がつらそうにしてるのをなんとか明るくしようと、姉がバイトをしてみんなで外食などをした。	女性	30代	15	母親
・親と症状について、今の状況について話を聞いてもらい、一緒に考え解決していった。	女性	20代	17	父親

### 【友人の支えにより解決】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・困難さの内容は、人間関係を作ることが憂鬱になったこと。具体的には幼かったころの引越体験や、事故後の生活環境により、誰かと遊ぶことや家を出て遊ぶことに対して抵抗をおぼえてしまった。解決方法は、親しい友人との定期的な交流。ただ、社会人になった今は、人間関係を新たに作る事ができにくくなっていると思う。また幼かった時の体験が、今の私の行動パターンにも影響を与えているとは思っている。	男性	20代	3	父親
・本当に気持ちの面では、友人、祖父に助けられた。学校も不登校になりそうになったし、大変だった。	男性	20代	12	弟
・亡くした家族に気を遣って行動するかしないかで悩んだが、友人に助言を貰い解決した。	男性	20代	8	妹
・二人きょうだいだったので急に心細くなったり、寂しくなったりすることがあった。友人と遊んだりすることで解決した。	男性	20代	16	姉
・友達の心遣いを受け、最後は自分自身との戦いだと思います。	女性	30代	11	弟
・友達と遊ぶ。身体を動かす。	女性	30代	10	兄
・友達と過ごしたり趣味に没頭して気分転換をしていた。	女性	20代	8	父親
・友人などに話を聞いてもらったり、インターネットで解決法を探したりした。	男性	20代	17	弟

### 【先生など信頼できる周囲の人の支えにより解決】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・食欲不振や不眠症があったので病院に行って話を聞いてもらいました。聞き上手な先生だったので吐き出せたことで解決していきました。	女性	20代	17	妹
・学校の先生が心配してくれて学校終わってからも夜に家にきてくれたり心配してくれた。	男性	20代	0	父親
・色々な人に聞いてもらい殻を破りました。書籍を読みました。	男性	20代	0	妹
・色々な人に相談したり、カウンセリングを受けて解決した。	女性	10代	5	父親
・先生に相談。	男性	10代	15	父親
・とにかく、周りに相談する。ため込まない。	女性	20代	15	姉

### 【同じ境遇の人の支えにより解決】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・誰かに相談したって、どうせ偽善の言葉しか出てこないだろうからと、自己解決していた事がほとんどです。支援団体を通じて同じ境遇の子たちと繋がるようになり、そこで初めて本音や辛さを共有して楽になったぐらいかな。自己解決でも解決できてない部分は、もう保留。考えないようにするだけ。考えたって時間も故人も帰ってこないの。	女性	20代	1	父親
・親の自分への期待に耐えられなくて、学校の教師や友人に相談しようとしても、満足いく結果が得られなかった。「あなたが可愛いからよ」という答えしか返ってこなかった。同じ境遇の人と話す事だけで満足していたように思う。	女性	20代	6	兄
・気持の面は良く友達と遊び、母が大きな愛をもって育ててくれたのでさびしい気持ちにはあまりならなかった。交通遺児センターの方達と旅行に行った。弟には男親が必要だと思った。	女性	20代	5	父親
・何事に対してもやる気が起きないなどの現象があったが、経験者の方のブログなどを読んでいくうちに「自分だけじゃないんだ」という気持ちに変わっていった。	男性	30代	9	兄
・同じ境遇の知人とできるだけ多くの時間を共有して、気持ちを吐き出した。	男性	30代	12	姉

### 【医療機関・相談機関等の受診により解決】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・不眠状態が続いたため、医療機関を受診して睡眠改善薬を処方してもらった。	女性	20代	16	妹
・病院や学校のカウンセラー。電話相談。関連書籍。	女性	30代	15	父親
・パニック障害になったので心療内科に行って治療した。	女性	20代	14	父親

### 【解決しなかった】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・将来への不安、人に会いたくないなど色々ありましたが、解決したのかもよく分からないままです。	女性	20代	13	父親
・色々な悩みがあっても解決の仕方もわからなかったし、解決もしなかった。	女性	20代	15	兄
・忘れようとしてもうまくいかなかったです。	女性	20代	9	兄
・解決できなかったし、解決しようと思わなかったし、死にたい気分でした。	男性	20代	11	弟

(7) 「心身の困難さや行動面の変化」に関する情報の希望

問 48 : 「気持ちの面での困難さ」や「身体面での困難さ」「行動面の変化」について、あるとよかったと思う情報はありますか。

「心身の困難さや行動面の変化」について、あるとよかったと思う情報については、主に以下のような意見がみられている。

【支援者及び支援団体に関する情報】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・体調面の悩みは半年くらい続いたが、両親も大変だとわかっていたので、なかなか自分の体調が悪いことを言い出せなかった。学校の先生が定期的に体調のことについて確認したり、保健の先生の援助をもっと得たかった。	女性	28	16	妹
・支援団体の情報ですね。同じ境遇の人が集まれる場を提供して支援してくれるところの情報がないと、みんな孤独なままです。	女性	23	1	父親
・カウンセリングなどを受けたり、前向きになれる講座やイベントなどの案内をしてくれる機関。	男性	32	12	兄
・支えてくれる人、悩みを聞いてくれる、心から信頼できる親族以外の人がいいたら良かったと思います。そういう人がどこにいるのかも知りませんでした。	女性	26	13	父親
・支援団体について。子どもから見て親が変わってしまった場合の対処法。	女性	20代	12	姉
・カウンセラーや相談できる機関の電話番号など。	男性	20代	1	父親
・遺族に渡すパンフレットやカウンセラー対応があればよかった。	女性	30代	17	兄
・学校でのケア(カウンセラー)があれば、話ができた。	女性	20代	11	兄
・親がいなくても行ける精神科があればよかった。	女性	20代	11	兄
・セカンド・オピニオンのような支援制度があると良かったと思います。	男性	20代	16	兄
・サポートしてくれる病院。	女性	20代	17	父親

【心のケアに関する情報】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・先の人生が全く違ったものになるので、漠然とした不安は拭い去れない。そういったものを解消できるものがあると一番いいと思う。	男性	30代	2	父親
・私は幼かったので、あまり感じなかったが、父や家族は私たちきょうだいへの接し方を知りたかったのかもしれないと思う。	女性	20代	4	母親
・どうしたら気持ちがまぎれるかの方法。普通の方法しか雑誌には載ってなく、まったく効果がなかった。	男性	20代	16	父親
・自分のとっている行動や、感じている気持が良いのか悪いのかの判断がつく情報が欲しかった。	男性	20代	14	姉
・遺族が陥ってしまう行動、思考の情報があるととても助かりますし、ある程度予防も出来ます。	女性	20代	10	父親
・心の変化についての例があればそれを目安に元の日常に戻りやすかったのかなと思う。	男性	20代	14	兄
・躁鬱っぽくなったのでその対処法。	女性	20代	17	兄
・悩み解決の体験談はたくさん知りたいなと思った。	女性	30代	12	妹
・前向きに生きる方法。	男性	20代	17	弟
・精神面と身体面で、家族がなくなった後どういう症状や影響が起きるのかということ。	女性	10代	11	父親
・事故から数年経った、成長してからのケア。	女性	20代	7	弟
・乗り越え方や考え方、支援団体の情報など。	女性	20代	7	母親

【同じ境遇にある人と交流できる場に関する情報】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・相談できる機関や救済機関、同じ経験をした仲間とつらさを分かち合える場の情報。(自分以外の人たちに)きょうだいを亡くした人の想像以上のつらさ(自分もつらいが、両親を支えなければならない)が分かるよう、広めてほしかった。	女性	20代	17	姉
・個人情報や晒さなくても、同様の経験をした人達が情報共有できるインターネット上のサイトを知りたかった。本音で言い合うことができやすい。	男性	30代	9	兄
・気軽に相談できる場所があったらいいかと思います。お互いの顔が見えないほうがいいと。	女性	20代	5	弟
・交通事故でなくなった家族の心情をもっと世間に広められたらと思う。	女性	30代	2	姉
・同じような体験をした人のインタビューや手記に触れてみたかったと思います。	女性	20代	15	兄
・同じような状況の人がどんな風に立ち直ったというか、普通の生活にもどったのか知りたい。	女性	20代	15	姉
・同じ仲間が集えるようなサークルやNPOの団体があればいいと思う。	女性	20代	6	兄
・同じ体験をした同世代の方との交流機会があると良かったと思う。	男性	20代	3	父親
・同じ境遇の人が自分が経験した行動をのせているサイト等があったら良かった。	女性	20代	10	父親
・仲間の情報。	男性	20代	17	妹
・自助グループの集会の情報。	女性	20代	5	父親
・交通事故ご遺族の体験談。	男性	20代	11	弟

【必要な情報の入手方法に関する情報】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・多分、その直後というのは自分からそういうものを探そうという気持ちになかなかならないと思うので、例えば必ず行くこと、行くところ(葬式の会場や役所など)に、パンフレットなどが置いてあったらいいのではないのでしょうか？	女性	20代	17	兄
・自分はそれらの情報が当時必要ではなかったと思っていたので、情報というよりも、幼いながらも情報を得られるような機会があればいいと思う。	男性	20代	8	父親
・誰でも手に入るような場所に、情報があるとよい(区役所など)。	女性	20代	6	父親

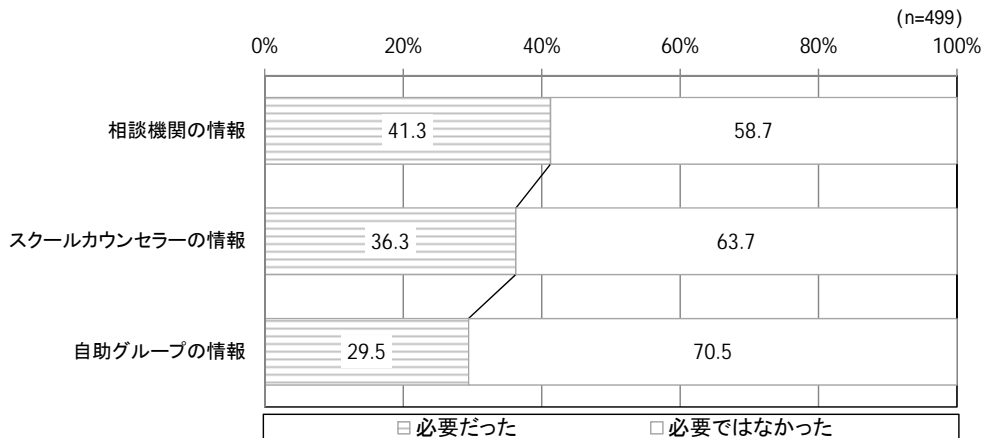
## 10. 「家族や友人関係に悩んだときの支援」に関する情報

### (1) 「家族や友人関係に悩んだときの支援」に関する情報の必要性

問 27：ご家族を交通事故で亡くされた後、家族や友人関係に悩んだときに、以下のような支援に関する情報が必要でしたか。

「家族や友人関係に悩んだときの支援」に関する情報について、「必要だった」とする回答率の高い項目は、「相談機関の情報」(41.3%)、「スクールカウンセラーの情報」(36.3%)、「自助グループの情報」(29.5%)となっている。

図表 6-10-1 「家族や友人関係に悩んだときの支援」に関する情報の必要性

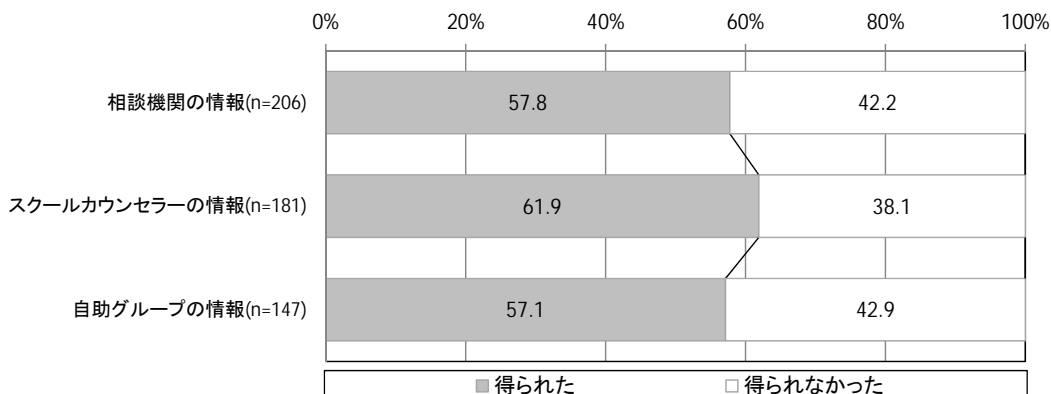


### (2) 「家族や友人関係に悩んだときの支援」に関する情報取得の有無 (情報が必要だった者のみ)

問 28：ご家族を交通事故で亡くされた後、家族や友人関係に悩んだときに、下記のような支援に関する情報について、得ることはできましたか。

「家族や友人関係に悩んだときの支援」に関する情報について「必要だった」とする回答者のみを集計している。取得の有無については、「得られた」とする回答が過半数であるが、「得られなかった」とする回答は「相談機関の情報」42.3%、「スクールカウンセラーの情報」38.1%、「自助グループの情報」42.9%といずれも4割前後にのぼっている。

図表 6-10-2 「家族や友人関係に悩んだときの支援」に関する情報取得の有無



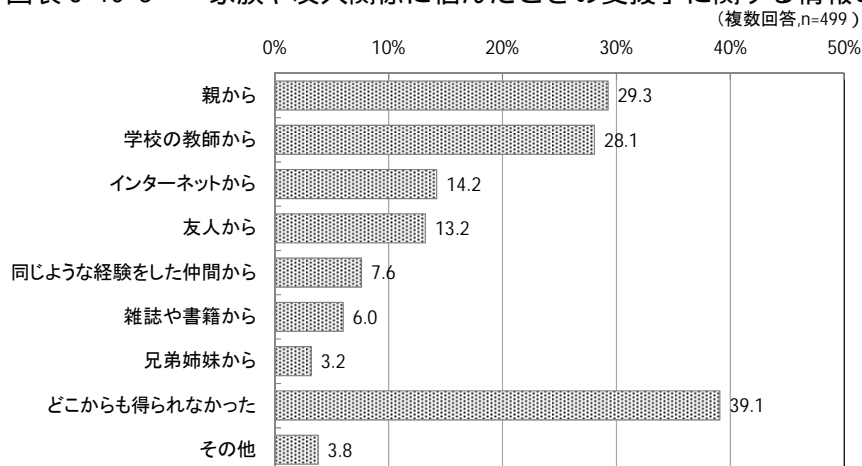


(3) 「家族や友人関係に悩んだときの支援」に関する情報の取得先

問 29：前問までで提示されていたような「家族や友人関係に悩んだときの支援」に関する情報を、どこから得ましたか。

「家族や友人関係に悩んだときの支援」に関する情報の取得先については、「親から」(29.3%)、「学校の教師から」(28.1%)、「インターネットから」(14.2%)、「友人から」(13.2%)の順となっており、学校の教師及び親からの取得が中心である。他方、「どこからも得られなかった」とする回答が39.1%となっており、約4割は、そのような情報について得られていない。なお、その他の回答としては、「学校の掲示物」「支援団体から」「警察から」「弁護士から」等の回答がみられている。

図表 6-10-3 「家族や友人関係に悩んだときの支援」に関する情報の取得先

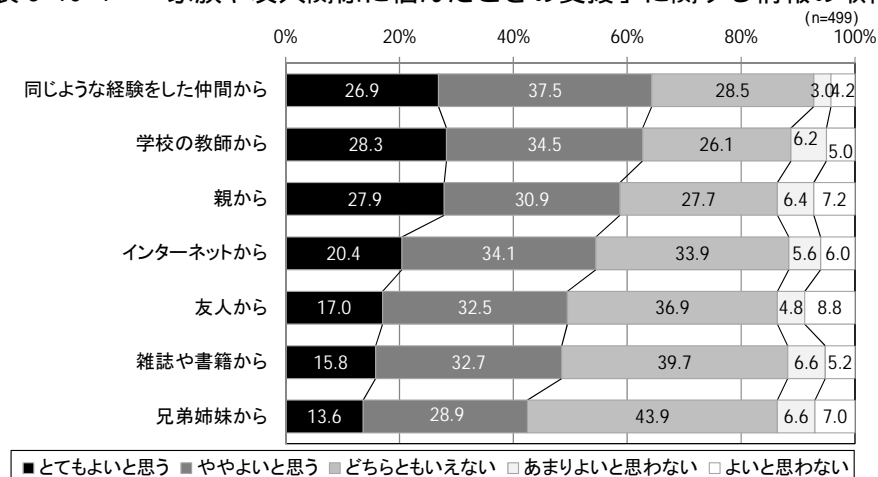


(4) 「家族や友人関係に悩んだときの支援」に関する情報の取得先の希望

問 30：「家族や友人関係に悩んだときの支援」に関する情報は、どこから得られることがよいと思いますか。

「家族や友人関係に悩んだときの支援」に関する情報の取得先の希望について、「よいと思う」とする回答(「とてもよいと思う」「ややよいと思う」の合計)は、「同じような経験をした仲間から」(64.4%)、「学校の教師から」(62.8%)が最も高く、同じような経験をした仲間や学校の教師が期待されていることがわかる。なお、その他の希望についての自由記述の回答は、「市役所など公共機関の掲示物」「警察から」「支援団体から」「弁護士から」「新聞」等がみられている。

図表 6-10-4 「家族や友人関係に悩んだときの支援」に関する情報の取得先の希望



(5) 家族や友人関係に悩んだときの解決方法

問 31：ご家族を交通事故で亡くされた後、家族や友人関係に悩みが生じた場合、どのようにして解決しましたか。

家族や友人関係に悩んだときの解決方法については、以下のような記述がみられている。

【話し合いや相談などにより解決した】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・情緒不安定になったり、集中できないことが続いた。友人に話を聞いてもらって、気持ちを吐き出すことを何回も行った。	女性	20代	16	父親
・母親となんでも話をするようになった。学校では事故について話せなかったため、ちょっとしたことでも相談した。	女性	20代	17	父親
・自己嫌悪に陥ったときに、友人に相談に乗ってもらい、SNSを通して情報共有できた。	男性	20代	16	弟
・学校のカウンセリングルームに行ったらカウンセラーに悩みを聞いてもらった。	女性	10代	16	父親

【何かに熱心に取り組むことで解決した】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・時間が忘れさせてくれると思い、部活動や勉強に集中しました。部活で疲れが得られれば、自宅に帰って思い悩み過ぎて眠れなくなるという状態が軽減されました。勉強で成績を残すことで自分の存在感を得ることも少しできました。あまり読書をした記憶はありませんが、あいだみつおさんの詩集などを読んだりした記憶はあります。ストレートに激励を啓発するような書籍はあまり自分から手にしなかったと思います。あまり同情されたくもなかったんだと思います。	男性	20代	17	弟
・母子家庭になったので、なるべくいろんなお小遣いサイトに登録したり、アンケートモニターをしたり、バイトをしたり、高校から進学もしなかったりなど、お金を儲けたり節約などをしていました。	女性	10代	5	父親
・父親が亡くなり、母親は仕事ばかりするようになり団らんの時間が少なくなった。それでも生活は厳しいと、幼いながら感じていた。自分が中学生になり新聞配達のアパートを始めて、自分のお小遣いができて気持ちは楽になり、精神的に成長できたので母親ががんばっているのがわかり、自分の気持ちをコントロールできるようになった。	女性	20代	8	父親
・悩まないようにしていたと思う。交通遺児の会主催のキャンプなどに参加して、親を亡くしたことを忘れられる機会があったことが、一番の支えだったような気がします。	女性	20代	7	父親
・自分で紙にひたすら物を書いて落ち着こうと努力していた。	男性	20代	16	父親

【周囲のサポートにより解決した】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・同じ事故で自分だけが助かった事が心の傷となったが、友達のおかげで癒す事ができた。家族は同じ思いのはずであり、やはり家族とは別の人のつながりが一番だと思います。	女性	30代	11	弟
・高校進学や大学進学について、担任の先生が一生懸命になって情報を集めたり支援したり手続きしたりしてくれた。	女性	30代	15	父親
・とくに自分で意識したことはないが、周囲が思いやりを持って接してくれたお陰で、自然に受け入れることができた。	男性	30代	11	兄

### 【自分自身で解決した】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・事故を起こしてしまった相手側の人生を考えられるようになってから、自然と気持ちは楽になりました。確かに悲しみは大きかったです、相手にもこれからすばらしい人生があったはずで、この事故で全てを失ってしまった。その代償は大きいと感じられるようになり、気持ちの整理を付けられるようになりました。	男性	20代	13	兄
・特に悩みはなかった。というか、考えないようにしていたので…。何か思うことがあっても、自分よりもっと辛い思いをしている人があるのだからと言い聞かせて自己解決していました。	女性	20代	1	父親
・他人からのアドバイスも受けたが、自分の身の振り方を自分で考えて解決していた。とくに、こちらから誰かに相談したことはない。	男性	20代	3	母親 妹
・人に頼っても何も解決しないことがわかったので、自分が強くなるしかないのだと思った。肝心なことは、人に話さない。	女性	20代	15	父親
・自分で悩んで解決した。最後は自分で考え、自分で決めなければ意味がない。	男性	20代	16	姉

### 【時間の経過により解決した】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・故人のことは一切家族の話題にのぼらず、自分がそのことについて何か言おうとすると、止められたり、はぐらかされたりしたため、家族に不満感と不信感、反発心などを抱き、そのせいもあって、家族との関係がギクシャクしたものとなってしまった。自分ではどうすることもできなかったため、時が解決してくれるのを待った。自然と関係も改善されたので、そういう解決方法も有効だと思う。	女性	10代	6	妹
・解決方法などない。時間がただ過ぎ去っていくのみ。強いて言うなら、時間経過による記憶の薄れが解決だった。	男性	30代	14	弟

### 【まだ解決していない】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・母親が情緒不安定になり、反抗期を迎えた自分とぶつかった。解決方法は見つからず、つい一、二年前にようやくお互いを受け入れることができた。気持ちを話せる人が周りにおらず、先生に相談すると「話し合いなさい」とだけ言われたが、話し合いが上手く出来ず、成人してからも引きずってしまった。	女性	20代	14	父親
・母の悲しみや、「父」という目標がいきなりなくなったことによる、長男としての兄の混乱や、姉が就職で家を離れ、実家の事が心配だと就職を辞めようとしていた事など、悩みは多かったです。支えきれなかった事もありますし、自分の悲しみを表に出せなかった辛さもありました。それぞれが乗り越えなければいけない事なので、解決方法は今でも自分自身よく分かっていません。	女性	20代	13	父親
・私は全てどうでも良くなって、不良グループの人達と一緒にいる事が多くなっていったので、自分の将来の事とかも全然考えることができなかつた。相談する事もしなかつたし、相談する相手もわからなかつたです。今は、ちゃんと高校を卒業したかったと後悔しています。	女性	20代	15	兄
・1人で考え、悩み、でも結局、命があるだけ私は幸せなんだと思い至りました。つまり解決したのかはわかりません。でもそれで精いっぱい、どこに何を相談しようとか、考える余裕もなかつたと思います。	女性	20代	17	姉
・解決しようと1人で努力をしたが全然できなかつた。母親や友人に相談して困らせることはできなかつた。	男性	20代	0	父親
・時が解決したというか、悲しみは今でも全く癒えない。	女性	20代	17	兄

(6)「家族や友人関係に悩んだときの支援」に関する情報の希望

問 32：家族や友人関係の悩みについて、あるとよかったと思う情報はありますか。どのようなことでも結構ですので、ご自由にご記載ください。

「家族や友人関係に悩んだときの支援」に関する情報の希望は、以下のような記述がみられている。

【悩みへの対処方法に関する情報】

遺族に起こりやすいことなど心のケアに関する情報

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・交通事故のご遺族(親や兄弟姉妹を亡くされた方)に起こりやすいことについての情報。支援団体の情報等。幼かったのでこれらの情報を知りうる機会がなかった。母が頑張ろうという気持ちが強かったためか、あまり父を亡くしたからという甘えのような部分を見せなかったし、頼ったりもしなかった。幼い私はその情報を得ることがなく、知っていればと今は後悔することがある。	男性	20代	8	父親
・当時、今ほどメンタルケアについて盛んではなかったと思う。幼いなりに無理やり元気に明るく振舞っていた事の裏側を知ってほしかった。自助グループなどの話も一度も聞いたことがなかった。年齢を重ねるにつれ悲しみが大きくなっていったので、そういう情報を知っていたらぜひ参加したかった。	女性	20代	5	父親
・母親が混乱し家庭が混乱したので(兄が亡くなり、家族にひずみを生じ離婚した)こちらからの行動ではなく、遺族に相手から自然と歩み寄り、情報を得られるようなカウンセラー的な存在があれば、家族が又違った形でいられたかなと思う。	女性	30代	17	兄
・雑誌やインターネットで遺族に起こりやすい心情を知れたらいいなと思います。インターネットなら掲示板で悩みを相談し、カウンセラーの方や同じ経験をした方から回答をもらったりするのもいいなと思います。	女性	20代	10	父親
・片親では、やはり子供の心のバランスが乱れがちになる傾向があると思うので、その対処法に関する情報があつたら良かったなと思う。本人は気付かなくても何かしらそういうサインは行動に出ていると思うから。	女性	30代	5	父親

生活や金銭面での悩みに関する情報

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・進学したい子には奨学金。離婚とは違い、亡くなってしまうと二度と会えないので、小さい子には精神的なケアがいるかも。	女性	20代	5	父親
・交通事故の遺族に対する補償など。	男性	30代	12	兄
・具体的な今後の生活についての情報。	男性	20代	16	父親
・その後の生活支援。	女性	10代	16	妹
・中学生でも出来るアルバイトの情報。	女性	20代	10	父親

同じ境遇の人の体験談

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・同じ経験をした人はどうやって現在まで過ごしてきているのかわかる情報があれば助けになると思う。	男性	20代	1	父親
・全国の同じ境遇の子供たちの実体験や感想などを知っていれば多少は楽になったと思う。	男性	20代	3	父親
・実際に同じ経験をした人の手記などが読んでみたかったと思います。	女性	20代	15	兄
・同種の体験をした人の体験談。	男性	30代	16	弟
・交通事故の遺族の悩みが記載されているサイトがあればいい。	男性	30代	15	弟

## 悩みに関する情報の入手方法に関する情報

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・語り場的な場所で話せたり、情報がちゃんと出ているなら是非と考えるのだが、情報にアクセスする方法が、かなり少ない。	男性	30代	14	妹
・カウンセラーや病院は少し敷居が高いし、残された家族も自分たちのこれからのことで一杯なので、そういう機関に相談に行こうということさえできない。あの時、誰かが話を聞きに来てもらえたら感情を吐き出せたと思う。	女性	30代	7	兄
・どこで情報を得ていいのか、事故当初はそこまで考えることができなかったのに、進んで声をかけてくる存在が必要だった。	女性	20代	16	妹

## 【悩みにかかわる支援機関等に関する情報】

### カウンセラーなど相談機関に関する情報

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・家族が一人居なくなってしまったので家族それぞれが未だに何か抱えていると思います。そうならない為にも、カウンセリングなど自然な形で話を聞いてくれる団体などの情報を知っていたら良かったかもしれません。	女性	20代	15	兄
・カウンセリング関係の情報はいらなかったと思うが、今から考えると必要だったのかもしれない。	男性	20代	16	父親
・スクールカウンセラーが今はあるが、その当時はなかったのに、あったらよかったと思う。	女性	20代	15	妹
・電話でのカウンセリング。	女性	30代	16	母親
・交通事故遺族のためのカウンセリングの情報。	男性	20代	16	姉
・親に気付かれる事なく相談できるような機関があれば良かったと思います。	女性	20代	12	姉

### 支援団体などに関する情報

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・お金の心配があるので、助けてくれる団体がどこにあるのか知りたかったです。	女性	20代	13	父親
・支援団体は、とにかく父子家庭の人用の情報をもっと充実させるべきだと思います。	女性	20代	17	母親
・心のケアをしてくれる団体の情報。	男性	20代	11	兄
・支援してくれる人や団体のことがもっと知りたかった。	男性	20代	17	弟

### 同じ境遇の人たちとの交流ができる場に関する情報

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・やっぱり、そういう点について分かり合える事が出来るのは同じ境遇の人だけだと思うので、そういう人が集まれる場所、意見交換が出来る場は絶対に必要だと思う。それを集めてくれる支援団体の情報が一番に必要だと思います。どうしても、なかなか人には話せない部分だし、少しずつ話しているうちに本音がポロポロ出てきてすっきりしたり、整理がついたりするものです。	女性	20代	1	父親
・同じ境遇で悩んでいる人の為のNPOなど。思春期で、このような悩みがあったとしたら、必ず相談していたと思うので。	女性	20代	6	兄
・同じ境遇の人たちと話し合えるような場がほしかったかも。	男性	20代	3	母親 妹
・インターネットによる、情報共有サイトの紹介などがあれば、うれしい。	男性	30代	9	兄

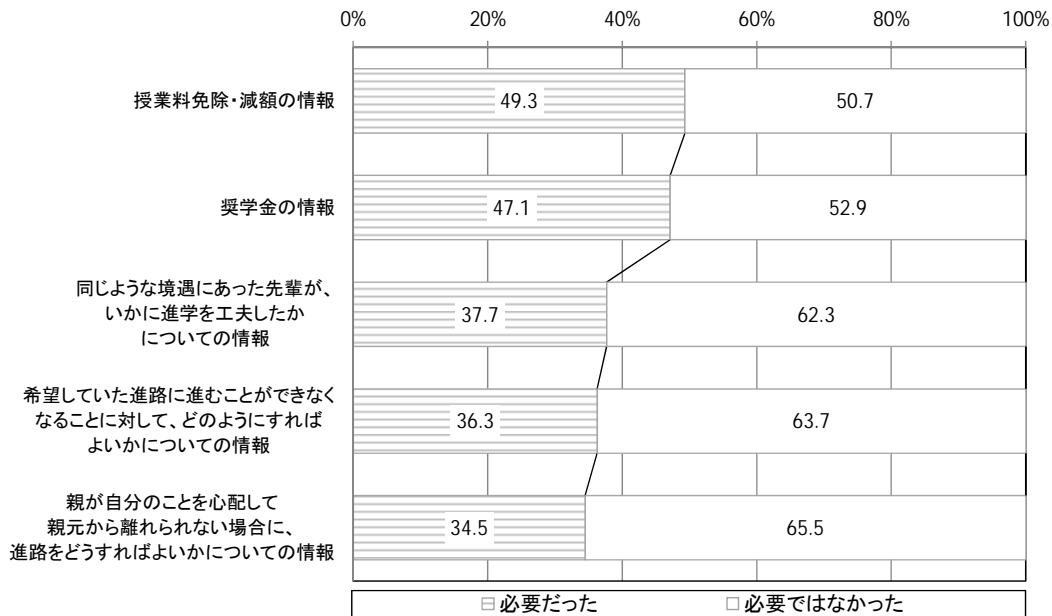
# 11. 「学業」に関する情報

## (1) 「学業」に関する情報の必要性

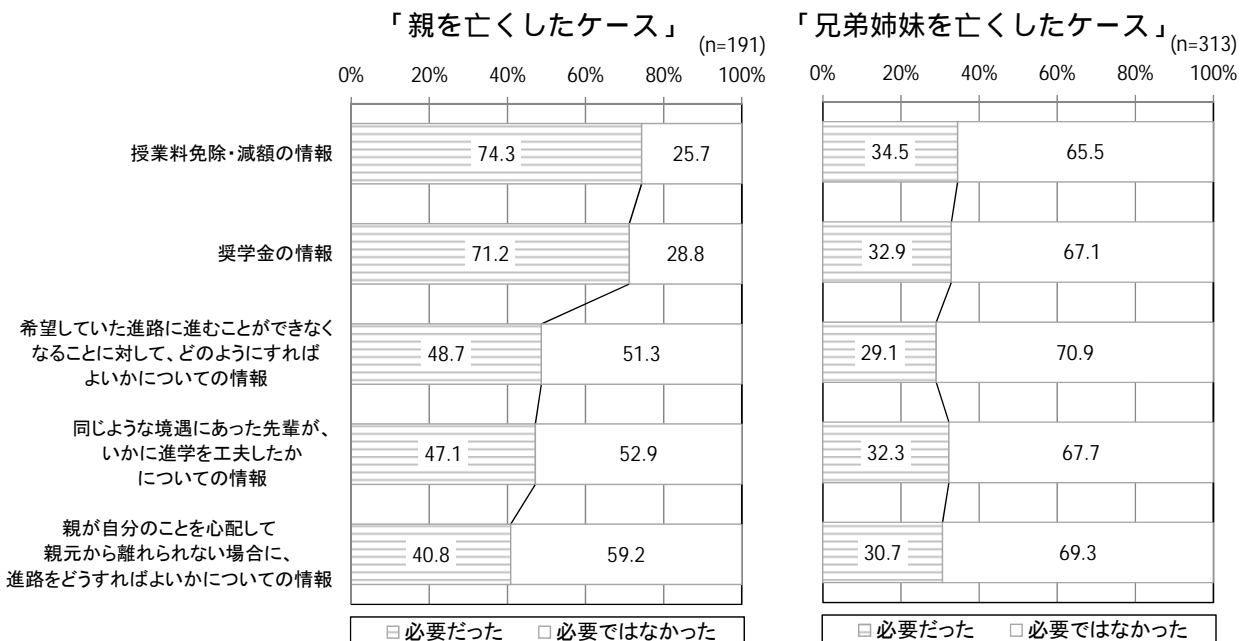
問 21：ご家族を交通事故で亡くされた後、以下のような学業に関する情報が必要だったと思いますか。

「学業」に関する情報について、「必要だった」とする回答率の高い項目は、「授業料免除・減額の情報」や「奨学金の情報」となっている。また、亡くした家族別に検討したところ、「親を亡くしたケース」のほうが、学業に関する情報の必要性は強く感じられている。

図表 6-11-1 「学業」に関する情報の必要性 (n=499)



図表 6-11-2 「学業」に関する情報の必要性 (亡くした家族別)

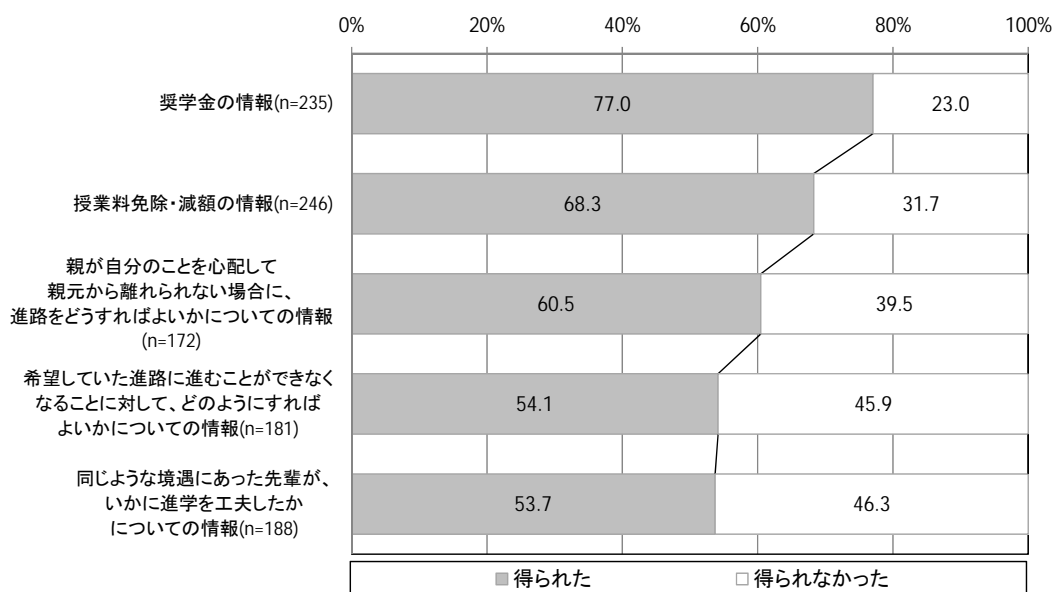


(2) 「学業」に関する情報取得の有無（情報が必要だった者のみ）

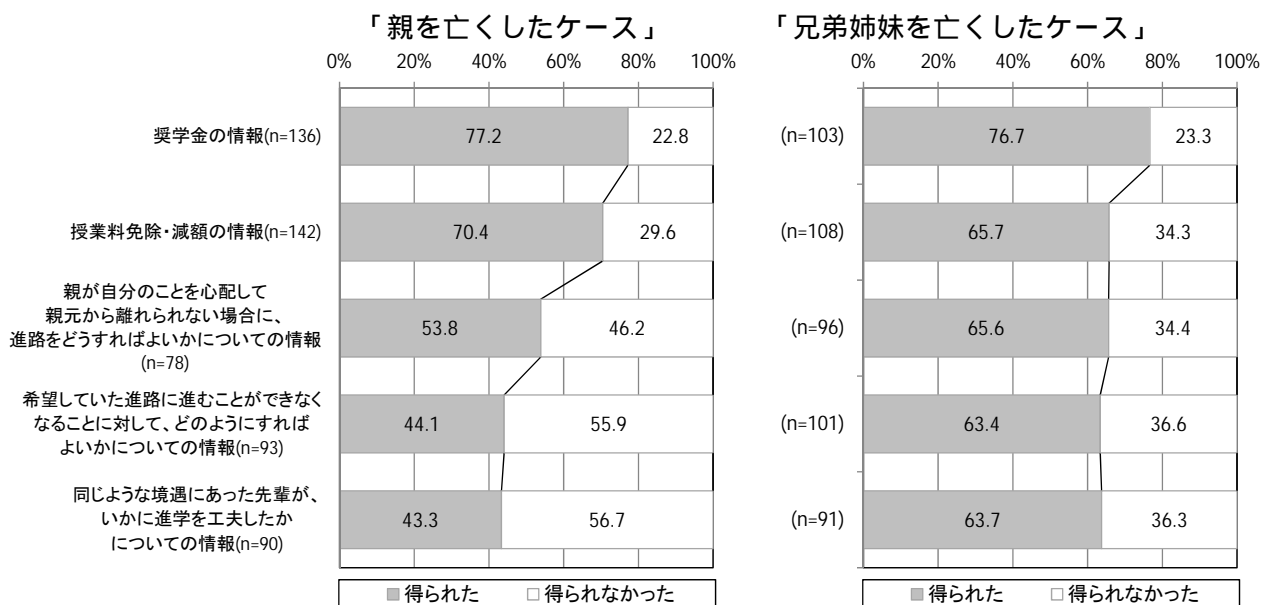
問 22：ご家族を交通事故で亡くされた後、以下のような学業に関する情報を得ることができましたか。

「学業」に関する情報について「必要だった」と回答した者を抽出して分析している。「学業」に関する情報取得が「得られた」とする回答は、「奨学金の情報」で77.0%、「授業料免除、減額の情報」は68.3%となっている。また、亡くした家族別の分析では、「奨学金」や「授業料免除・減額」についての情報は、ケースにかかわらず7割前後が得られている。しかし、「親が自分のことを心配して親元から離れられない」「希望している進路につけない」「同じような境遇にあった先輩の工夫」に関する情報は、親を亡くしたケースのほうが得られていない傾向が示されている。

図表 6-11-3 「学業」に関する情報取得の有無



図表 6-11-4 「学業」に関する情報取得の有無（亡くした家族別）

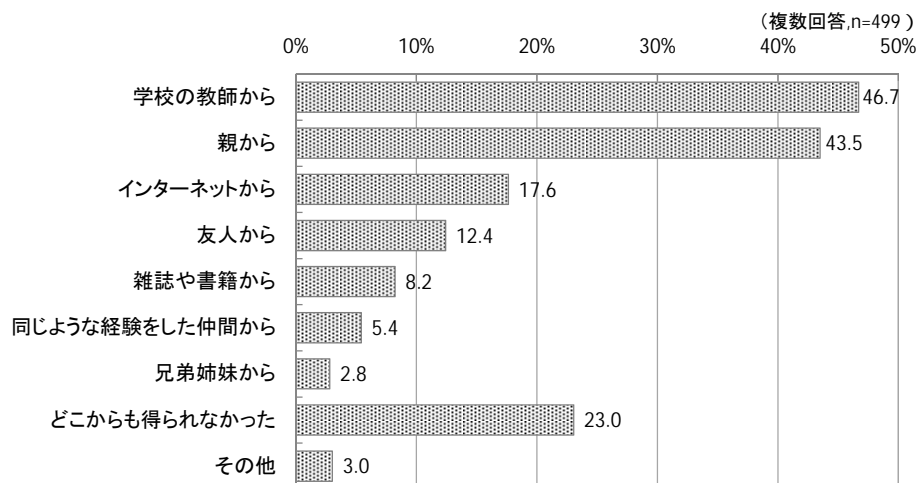


(3) 「学業」に関する情報の取得先

問 23：全問までで提示されていたような「学業に関する情報」を、どこから得ましたか。

「学業」に関する情報の取得先については、「学校の教師から」(46.7%)、「親から」(43.5%)、「インターネットから」(17.6%)、「友人から」(12.4%)の順となっており、学校の教師及び親からの取得が中心である。なお、その他の回答としては、「進学先の学校のパンフレットや入試要項」「市役所」「学校の掲示」等の回答がみられている。

図表 6-11-5 「学業」に関する情報の取得先

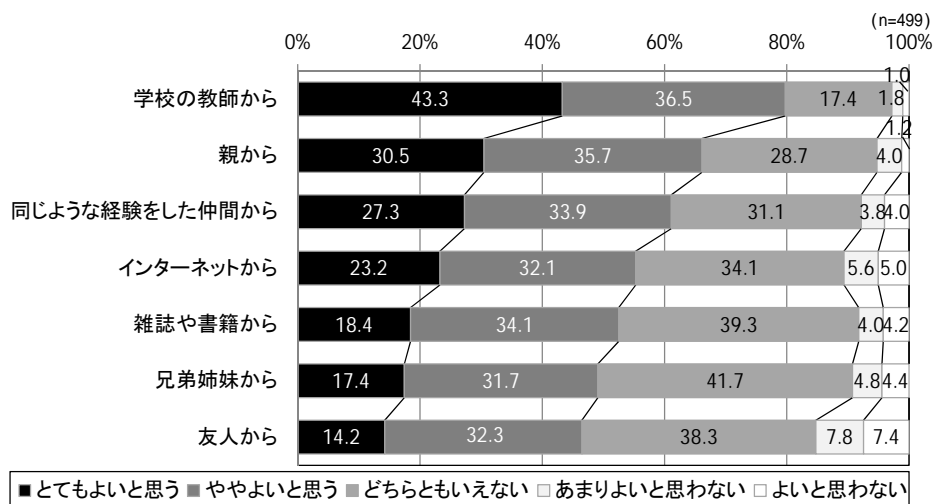


(4) 「学業」に関する情報の取得先の希望

問 24：「学業」に関する情報は、どこから得られることがよいと思いますか。

「学業」に関する情報の取得先の希望について、「よいと思う」とする回答(「とてもよいと思う」「ややよいと思う」の合計)は、「学校の教師から」(79.8%)が最も高く、学校の教師が期待されていることがわかる。なお、その他の希望についての自由記述の回答は、「自治体の窓口」「進学先のパンフレットや担当者」「遺族団体等の支援団体」等がみられている。

図表 6-11-6 「学業」に関する情報の取得先の希望





(5)「学業」に関する情報の役立った支援団体等の情報

問 25 : 「学業に関する情報」について、役に立った情報や支援団体があればどのようなものであったか、具体的にご記載ください。

「学業」に関して役立った支援団体等の情報は、以下のような記述がみられている。

【奨学金を支給している団体】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・あしなが育英会や日本学生支援機構、新聞社の奨学金制度、地方自治体による支援機構など様々な情報を調べました。ただ一番良いのは進学先で実施されている、専門の支援団体を利用すると良いと思います。私の場合は交通事故被害家族という項目で検索してもらいました。	男性	20代	17	弟
・母子家庭や父子家庭の集まりに参加させてもらって、同じくらいの年齢で、似たような環境の友達ができ、情報交換したり、話すきっかけができてよかった。奨学金の支援にも大分支えられ、助かった。	女性	20代	4	母親
・日本育英会と病院奨学金を利用しました。	女性	30代	10	父親
・同じような境遇の方が集まっている会。	女性	30代	5	弟
・サイト名は忘れてしまったが、同じような交通事故の被害者で作る会のホームページが参考になった。	男性	20代	15	姉
・地域の広報や学校などのホームページで奨学金について調べることができるので役に立った。私は交通遺児育英会の奨学金にお世話になりました。	女性	20代	8	父親

【教育機関】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・亡くなった時に、一切学業に関する情報が得られず、数年たってから、奨学金などの制度を担当の教師から教えてもらい、受けることが出来ました。市役所などで、亡くなった時に手続きをとる際、そのような制度があることを事前に知らせるべきなのではないかと思う。	女性	20代	10	父親
・学校の事務や先生に個人的に質問し、何か役立つ情報がないか聞いた。また、仲の良い塾の先生からの情報も参考になった。	女性	20代	16	妹
・大学に進んだ時に大学の奨学金制度が役に立った。	男性	20代	12	父親
・学校で授業料の全額免除が受けられた。	女性	20代	14	父親

【その他役立った情報】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・市町村の母子・寡婦会。	男性	20代	0	父親
・書籍	男性	20代	4	母親 兄
・奨学金制度や進学のこと。	男性	20代	16	兄
・進学ではなく手に職をつける専門学校の特設誌。	女性	30代	17	兄
・学校側がかき集めてくれた授業料免除についての資料が、役に立った。	男性	20代	16	父親
・学校(大学)の授業料減免制度の情報。	男性	20代	1	父親
・ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)サイト	男性	30代	16	弟

(6)「学業」に関する情報の希望

問 26 :「学業」に関する情報について、「このような情報があればよかった」と思うものがありましたら、どのようなことでも結構ですので、ご自由にご記載ください。

「学業」に関する情報の希望については、以下のような記述がみられている。

【授業料免除や減額についての情報】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・大学を受験する時に、授業料免除や減額の情報を、年頃のせいかな先生に聞きづらく困った。資料をいただいただけでも違ったのかなと思った。	女性	30代	15	母親
・大学で授業料免除の制度があったが、こちらから聞かないと教えてくれないシステムだったため3年まで制度の存在を知らなかった。教えてほしかった。	女性	30代	11	父親
・学費の減免関係や、メンタル面や長期に渡り入院したため勉学面でついて行けなくなった時のサポート等の情報など。	女性	20代	7	母親
・学費免除の基準について明示されていたらありがたいです。	女性	20代	15	兄

【奨学金についての情報】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・インターネットやパンフレットなどは活字で情報が詳細に確認でき、比較や検討が立てられやすいと思います。学校の先生などよりは、自身の境遇を理解してくれるので、私に合った情報を何件か提供して下さいました。ただ、どのような情報も、見積もりという部分で確約された数字が出るまで、進学が目標が立てづらかったということはありません。	男性	20代	17	弟
・自治体や国の補助金等の情報や、いくつもある援助団体の情報や奨学金制度をまとめてある冊子などがあれば役に立つと思う。	男性	20代	3	父親
・奨学金の条件等がきちんと書かれた一覧のようなものがあれば助かった。	女性	20代	14	父親
・奨学金の返済計画。	男性	10代	15	妹
・貸付はしっかり説明があるが、返済については曖昧。きっちり説明があればよい。	女性	30代	16	母親

【同じような境遇にあった先輩が、いかに進学を工夫したかについての情報】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・同じ痛みを分かち合うことができる学生向け支援団体の情報。	男性	20代	16	兄
・同じ思いをした人がどのように普段のように学業に戻れたか知りたかったです。	女性	20代	15	兄
・同じ目にあった人の進路について。	女性	20代	3	父親
・直接会って話ができる機会がたくさん設けられていること。	女性	20代	17	父親

【希望の進路に進むことができなくなった際の対処法についての情報】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・当時は、相当なストレスがあって、通っている高校に通えなくなり、留年をしました。結局は通信制高校に転校をして、高卒の資格を取りましたが、事故当時の状況から早いうちに転校を勧めしてくれる人がいればと思いました。	男性	20代	16	兄
・自分の進みたい道の幅が広がるように、出来るだけ広い範囲で情報が欲しかったです。学校の先生はあまり協力してくれたりしなかったです。	女性	20代	13	父親
・大学に進みたかったが、学費が少ない所の情報がたくさん欲しかった。	女性	20代	5	父親

## 1 2 . 現在の精神的状態

### ( 1 ) 過去 30 日間の精神的健康状態 ( K6 )

全体

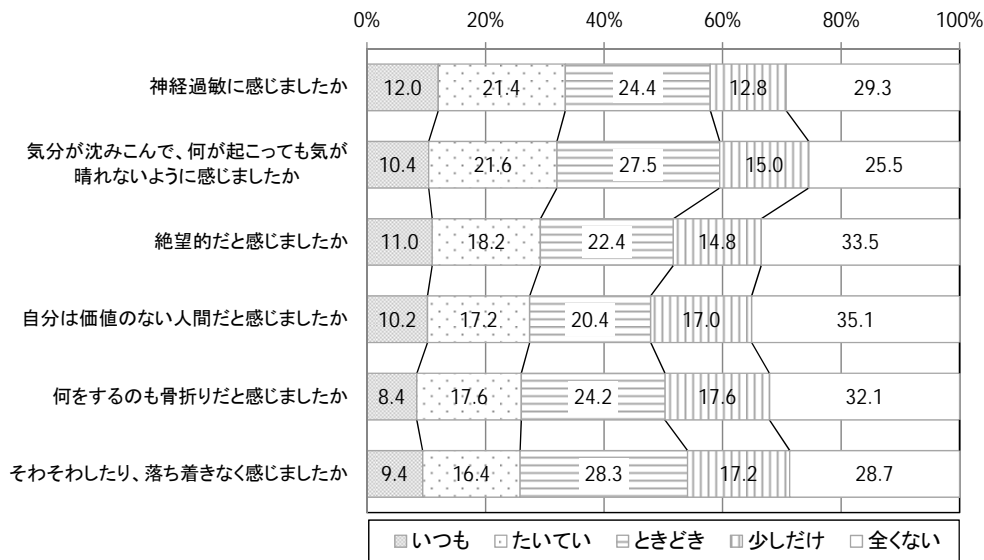
問 49 : 過去 30 日間、あなたがどのように感じていたかについておたずねします。

過去 30 日の精神的健康状態 ( K6 ) について、質問している。

集計の結果、「いつも」「たいてい」とする回答率が高い項目は、「神経過敏に感じた」( 33.4% )、「気分が沈みこんで、何が起ころても気が晴れないように感じた」( 32.0% )、「絶望的だと感じた」( 29.2% ) となっている。

図表 6-12-1 過去 30 日間の精神的健康状態

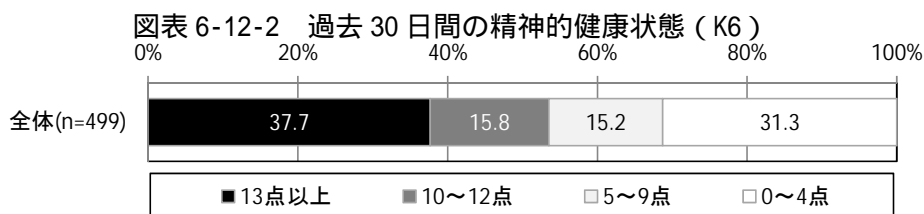
( n=499 )



K6 とは、うつ病、不安障害に対するスクリーニング項目である。2002 年に米国の Kessler らが項目反応理論に基づき提案、日本語版は名古屋市立大学大学院医学研究科古川教授らが翻訳している ( 所属は発表時点のもの )<sup>1</sup>。K6 は、上記のグラフにある「神経過敏に感じた」など 6 つの設問に対し、「いつも ( 4 点 ) 」 ~ 「まったくない ( 0 点 ) 」にスコア化し、合算して合計値を算出するものである ( 最大 24 点 )。合計値が高いほど精神健康の問題があるという意味となり、合計値 13 点以上が重症精神障害の診断に該当する可能性が高いとされている。

1 Furukawa TA, Kawakami N, Saitoh M, Ono Y, Nakane Y, Nakamura Y, Tachimori H, Iwata N, Uda H, Nakane H, Watanabe M, Naganuma Y, Hata Y, Kobayashi M, Miyake Y, Takeshima T & Kikkawa T (2008) The performance of the Japanese version of the K6 and K10 in the World Mental Health Survey Japan. International Journal of Methods in Psychiatric Research, 17, 152-158.

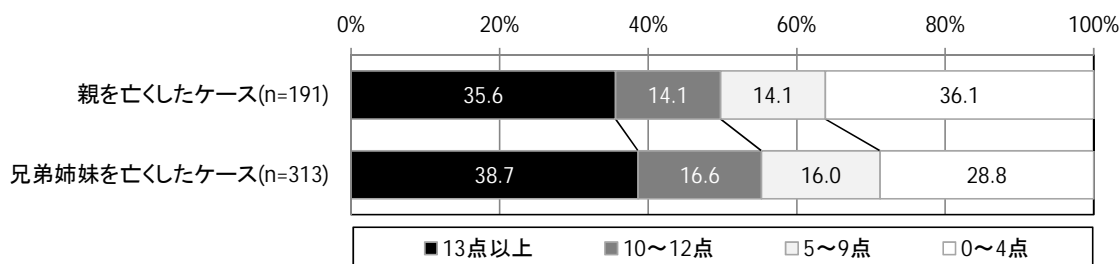
過去 30 日間の精神的健康状態に関する 6 項目について、「全くない」=0、「少しだけ」=1、「ときどき」=2、「たいてい」=3、「いつも」=4 とスコア化し、合算して算出している。K6 の合計値が 5 点以上の場合、「心理的ストレスの傾向が強い状態」であり、10 点以上は「精神健康が障害されている状態（気分障害や不安障害が該当するレベル）」、13 点以上の場合、「精神健康の障害により生活に影響が出ている状態（重症精神障害レベル）」とされている。分析の結果、13 点以上が全体の 37.7% となっており、重症精神障害レベルの方の割合が高い傾向にある。



### 亡くした家族別

亡くした家族別の分析では、顕著な差異はみられていない。

図表 6-12-3 過去 30 日間の精神的健康状態 (K6) (亡くした家族別)

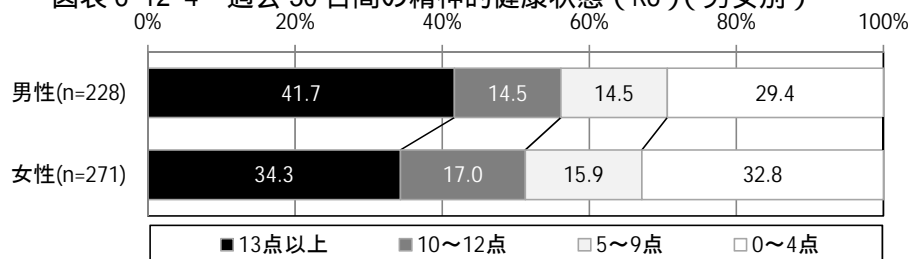


親と兄弟姉妹を同時に亡くしたケースがあることから、親を亡くしたケースの人数と兄弟姉妹を亡くしたケースの人数の合計は、全体の人数と一致しない。

### 男女別

男女別の分析では、性別による顕著な差異はみられていない。

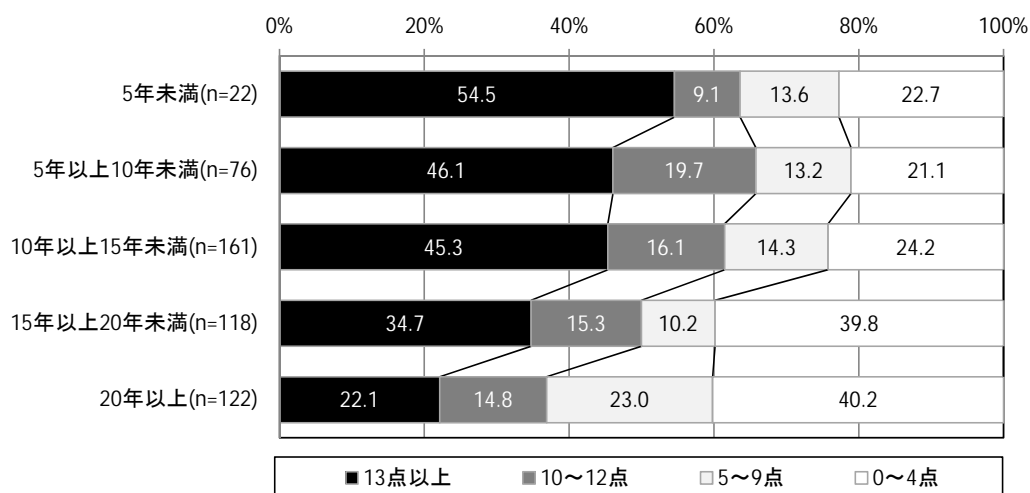
図表 6-12-4 過去 30 日間の精神的健康状態 (K6) (男女別)



### 事故後経過期間別

事故後経過期間別の分析では、「5年未満」のグループにおいて最も13点以上が多く、以下年数を経るごとに13点以上（重症精神障害レベル）の割合は小さくなる傾向にある。このことから、事故直後は重症精神障害レベルの比率が高いが、時間の経過とともに「10～12点」「5～9点」といったレベルに移行する可能性が示唆される。

図表 6-12-5 過去30日間の精神的健康状態（K6）（事故後経過期間別）



(2) 過去 30 日間の複雑性悲嘆反応

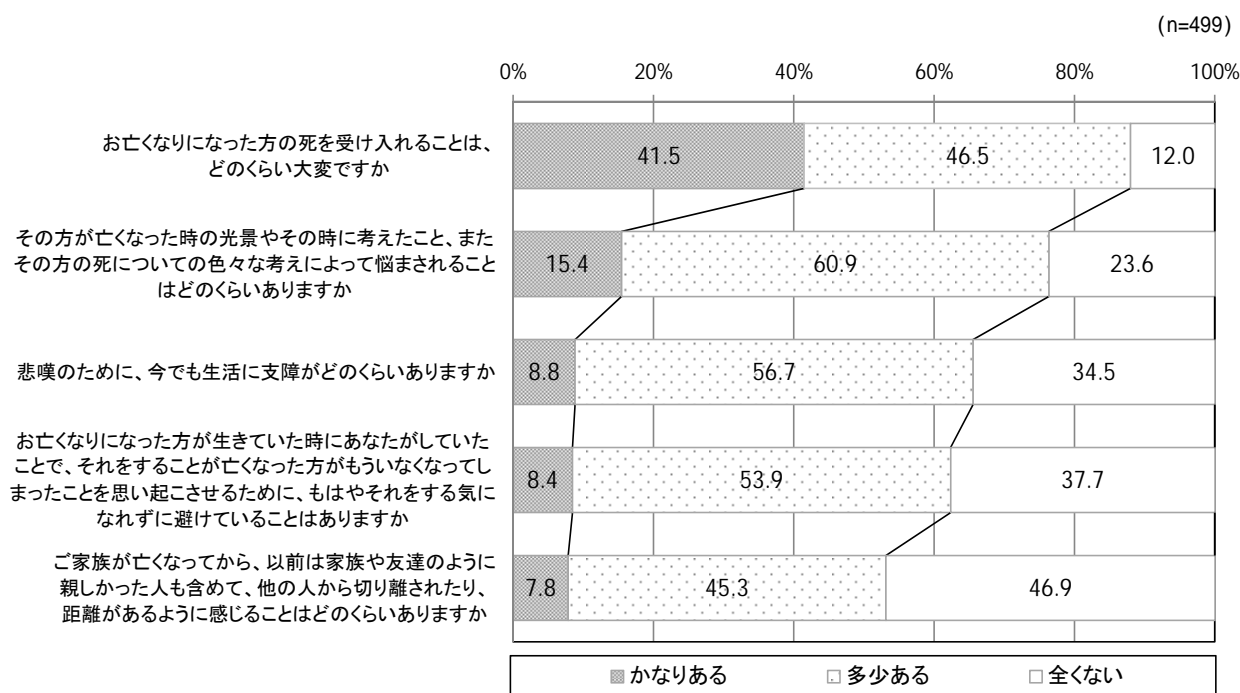
全体

問 50～54：現在のご状況（過去 30 日間の状況）について伺います。

現在の悲嘆反応 について、グラフに記載の 5 項目によって測定している。回答は、「かなりある」「多少ある」「全くない」から選択する方式であるが、「お亡くなりになった方の死を受け入れることは、どのくらい大変ですか」の項目のみ、「かなり大変である」「多少大変である」「全く大変でない」から選択する方式となっている。集計は、5 項目全てに回答のあった者のみ集計している。

集計の結果、「かなりある」とする回答率が高かった項目は、「お亡くなりになった方の死を受け入れることは、どのくらい大変ですか」(41.5%)となっており、死を受け入れることは、難しい様子が示されている。また、「その方が亡くなった時の光景やその時に考えたこと、またその方の死についての色々な考えによって悩ませることはどのくらいありますか」についても、「ある」とする回答(「かなりある」「多少ある」の合計)が 76.3%となっている。

図表 6-12-6 過去 30 日間の悲嘆反応

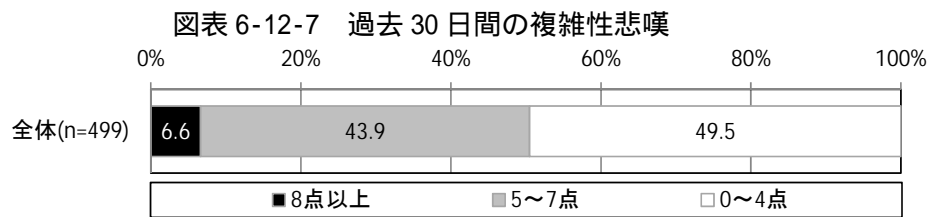


悲嘆の評価については、「複雑性悲嘆のスクリーニング尺度 (Brief Grief Questionnaire (Shear et al,2006) 日本語版)」を用いている。この尺度の信頼性・妥当性については、下記の文献を参照されたい。

中島聡美, 伊藤正哉他 (2010) 遷延性悲嘆障害の実態と危険因子に関する研究-罪責感の与える影響及びソーシャルサポートの役割を中心に . 明治安田こころの健康財団研究助成論文集 45, 119-126.

過去 30 日間の複雑性悲嘆反応について、「全くない(全く大変でない)」=0、「多少ある(多少大変である)」=1、「かなりある(かなり大変である)」=2 とスコア化し、合算して複雑性悲嘆反応を算出している。なお、複雑性悲嘆反応とは、「大切な人を失い、辛く悲しい気持ちや、亡くなった人を追い求める気持ちが、激しく、長く続く状態のこと」である。合計値が 5 点以上の場合は、「複雑性悲嘆が疑われる状態」である。また、合計値が 8 点以上の場合は、「複雑性悲嘆に相当する状態」であり、悲嘆が慢性化・常態化している状況と推察される。

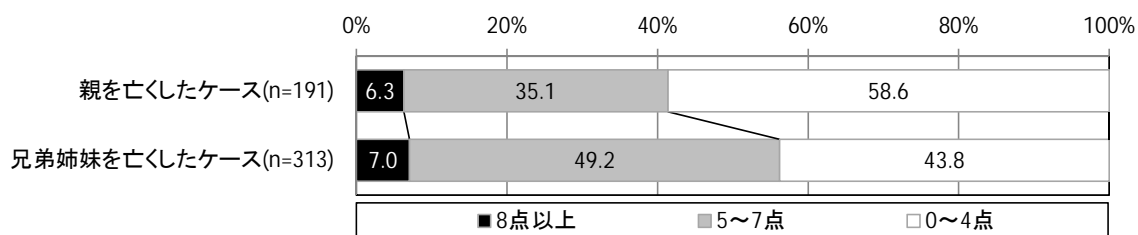
分析の結果、5 点～7 点が全体の 43.9% となっており、複雑性悲嘆が疑われる状態に区分される。さらに 8 点以上は全体の 6.6% となっており、複雑性悲嘆に相当する状態の者もいることが示されている。



#### 亡くした家族別

亡くした家族別の分析では、8 点以上のケースに顕著な差異はみられていないが、兄弟姉妹を亡くしたケースは 5～7 点の比率が高い傾向がみられている。

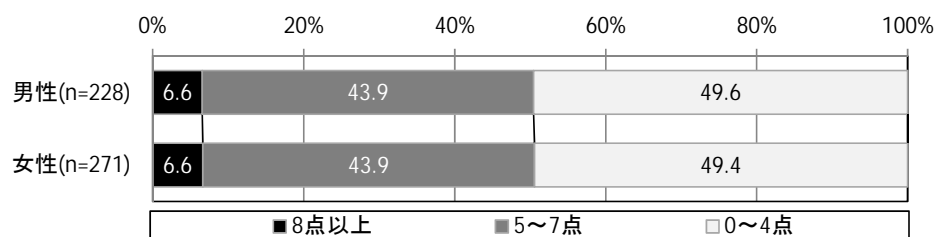
図表 6-12-8 過去 30 日間の複雑性悲嘆 (亡くした家族別)



#### 男女別

男女別の分析では、8 点以上のケースに顕著な差異はみられておらず、ほぼ同じ結果となっている。

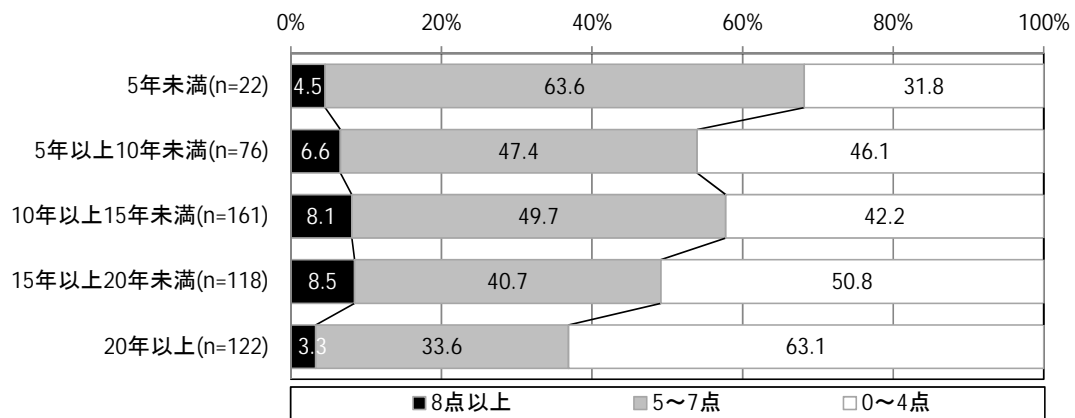
図表 6-12-9 過去 30 日間の複雑性悲嘆 (男女別)



### 事故後経過期間別

事故後経過期間別の分析では、8点以上が、20年未満に至るまで4.5%～8.5%にみられており、複雑性悲嘆に相当する状態が20年程度継続する者が1割弱程度いる可能性が示唆された。

図表 6-12-10 過去30日間の複雑性悲嘆（事故後経過期間別）





### 13. 交通事故の遺族への支援について感じていること

問 55：交通事故のご遺族（親や兄弟姉妹を亡くされた方）への支援に関することなど、お感じになっていることがございましたら、どのようなことでもご自由にご記載ください。

交通事故の遺族への支援については、主に以下のような意見がみられている。

#### 【支援制度全般について】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・同じ交通事故の亡くなり方でも、やはり人それぞれ納得いかない部分や経緯はたくさんあるので、括り方が大きすぎると思う。	女性	30代	7	兄
・交通遺児に図書券が配布される制度が小学生の時にありましたが、「交通遺児」という言葉がショックだったし、自分たちは可哀想と世間から思われているのではないかと思った。	女性	20代	0	父親
・遺族の気持ちは、その人本人でないとわからないので、いろんな悩みや苦しみがあると思うので、いろんな人の話を聞けて、同情ではなく、対等の立場で見れる人も必要だと思う。	女性	20代	4	母親
・「交通事故の遺族」という括りにして欲しくない。別に、交通事故の遺族であること以外に共通点はそこまでないと思うから。	女性	20代	9	母親
・わからない。話すことで楽になるのかなと疑問に思う。自分で整理して受け入れるのが結局一番近道だった。	女性	20代	17	弟
・自分は幼かったので記憶自体ないが、物心両面でサポートが必要なのだと思う。	男性	30代	2	姉
・遺族といっても、千差万別であり、個々に応じた支援が必要と感じます。	男性	20代	16	兄
・お金ではなく何か支援できるものがあるのではないかと思う。	女性	30代	5	弟

#### 【経済的支援の必要性について】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・親が片方しかいない子供たちに対して、学校や幼稚園の家族参加型行事を行う場合には配慮をしてほしいです。ただ、一般的家族と目に見える形での配慮や差別化はほしくないです。あと、母親一人で子供を育てることに対して、国や自治体、支援団体が経済的に支援をし続けてほしいです。私は親戚や母親の職場環境がとても良かったことで大学まで行けて、今の職場で社会人として働けていますが、そのような恵まれたケースは少ないと思います。恵まれていない子供たちにも経済的・精神的な支援がとても重要だと思います。生活地域全体でその子供たちの生活を支える制度や里親制度など生活面や経済面での支援が必要だと思います。	男性	20代	3	父親
・金銭的な面での援助や情報は絶対に必要だと思います。事故家族は自ら情報収集できる状況にそのときはありません。あんな支援もあったんだと後から思うものです。学費の免除があっても実家を出なければならぬ場合などは生活費やそれに伴う準備費などは自費なのであらかじめ。	女性	20代	6	父親
・私は母親がなくなったので、父だけの一人親家庭になったのだが、そのころは母子家庭に対する援助や支援はあっても、父子家庭に対するそれはまったくなかったように思う。共働きの家庭だったため、父一人で三人のきょうだいを育てていくのは大変だったと思う。母子でも父子でも片親家庭には違いはないので、金銭的にも環境的にも支援は必要だと思う。	女性	20代	6	母親

【支援制度や支援団体等に関する情報提供の必要性について】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・立ち直るのは基本的には自分の力だとは思いますが、それでも他者の力を必要とする時が大いにある。たまたま私は自己で解決することが多かったが。ただ、当事者たちを支援する人や団体が存在しているので、そういうものに頼りたい。しかし、その存在すら知られていないため、普段から(当事者となる前から)知り得るようにしたいと思う。広告を出すとか一般人への告知。	男性	20代	15	兄
・傷ついた遺族に対して、どのような団体や、支援してくれる人がいるのかどうなのか、当時からまったく分かりませんでした。現在もよく分かりません。普段からテレビやラジオで、そういった情報をもっと分かりやすく、印象深く取り上げる事が大事だと思います。そういった事が、当時頭に残っていれば、少しは気持ちの面や、身体的な面でも違ったと思います。そういった情報が無かった事に対して、今でも少し腹が立ちます。	女性	20代	13	父親
・自力で本やインターネットなどで積極的に情報を求められない年齢の低い子どもには、とくに助けや支えが必要だと思うので、そういう子どもでも手の届く身近なところに、そのような助けとなるものがあればいいと思う。たとえば、学内のポスターや子どもの見る番組やCMで、そういうものがあると知らせたり、電話一本で親身になって悩みを聞いてくれるサービスがあれば、当時の私もそれを利用していただろうと思う。話をただ聞いてもらえるだけで、苦しみは軽減されると思う。	女性	10代	6	妹
・私は幼かったので知らないだけかもしれませんが、死んだときに遺族に対して、国からでも、市区町村からでも、病院からでもいいので交通事故遺族支援情報を教えてほしい。金銭面でもメンタル面でも、とにかくなんでもいいので情報があり、助成を受けたり、カウンセリングを受けられたりしていれば、もう少し楽に生きてこられたかもしれない。特に私のように事故当時は幼く決定権がなかった立場の者は、周りの大人が動いてくれなければ何もできない。家族には義務的にカウンセリングを受けさせるとか(特に子供)も必要だと思う。	女性	20代	5	父親
・私は母がとても立派だったし、きょうだいもおり、祖母・祖父も近くにいたり、周りの環境に恵まれていたと思うが、もともと少ない人数で生活していた人にはこまめな支援が必要だと思う(※押しつけでなく、求められたら助けられる仕組み)。助けが欲しいと思った時に、どこへ助けを求めればいいのかすぐにわかるシステムは必要ではないかと思う。私はそのような情報はもらわなかったと思うが(不要だったので構わないが)、遺族全員に対して、相談できる窓口の存在等を教えておけば、家族に言えない悩みをひそかに打ち明けたりできるのでいいと思う。	女性	30代	11	父親
・支援する団体はたくさんあるけれど、どんな団体があるのかわからない。その情報をどのように得ていいのか、わかりづらいということが問題だと思う。また、悲しいことに直面している時は余裕がないので、情報を得るといふ行動すら億劫になってしまう。自分から支援団体に連絡するのではなく、周囲の援助が必要不可欠だと思う。	女性	20代	16	妹
・私の場合は、金銭的な事の不便はなかったのでよくわからないが、気持ち的な問題はのちのちから出てくることだと思うので、そういった時に助けになる人、物、本、サービスなどの情報が気軽にに行ける場所や郵送などで届くといいのではないだろうか。	女性	20代	17	兄
・家族に詳しく話すのは辛いとは思いますが、何も知らないまま過ぎていく者の事も考えて欲しいです。家族に聞きづらい境遇の方も沢山いると思います。その方々のために、家族に聞かなくても自分で確認できるようなところがあればいいと思います。	女性	20代	3	兄
・市役所などにいろいろな支援に関する情報がのっている冊子などがおいてあればいいと思う。	女性	20代	15	父親
・今まで交通事故の遺族に対しての支援を感じた事が一切ないので、そういうものがある事を意識した事がなかった。自分が当時幼かったせいもあると思うが、支援に関する情報がどのように遺族に知らされているのか全くわからない。	女性	20代	7	兄
・交通事故なのに警察は何の相談にもついていないし無力だと感じました。警察が遺族に対して支援団体の紹介をしたりするべきだと思います。	女性	20代	15	兄
・パンフレットなど、どこに問い合わせたらいいか等を子供にも分かりやすくしてくれたらいいと思います。	女性	20代	15	兄
・自分から積極的に情報を得ようとしなければ得られないので、警察や公的機関から遺族に必要なと思われるパンフレットや冊子をあげてほしい。	男性	20代	14	兄
・家へ話を聞きに来てくれたり、情報を持ってきてくれる係員のような人がいたらいいと思う。	女性	20代	11	兄
・どうすれば給付金が受け取れるかなどの手続きに関する情報がわかりづらい。	男性	20代	12	父親

【行政及び支援団体の対応について】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・事故経験者だけ感じる事象、例えば、事故の際の衝撃、音、臭い、身体の痛み等がある。それらを経験者で無い人間が、分かったような口で「よく分かる」などと決して言うべきではない。特に公務員のカウンセラーの方がその傾向にあるので気をつけていただきたい。今の時代はインターネットがあるのだから、個人情報を出したくない人でも気軽に意見を言いやすい環境にあるといえる。その意見を積極的に取り入れる仕組みを整えて欲しい。それらを集約した上で、カウンセリングを行う人達は最大限「想像力」を発揮して欲しい。	男性	30代	9	兄
・さまざまな学業支援の方法がありながら、それらを設けている機関は積極的に知らせることをしない。特に私立の大学など。これに気づけない情報収集に疎い子がかわいそう。せめて学業進学に関する公的な相談所ができればいいと思う。	男性	20代	16	父親
・被害者や遺族の立場が軽視されているような感じはする。最近は大いぶ改善されているのではないかと思うが、事故当時(10年以上前)は警察や司法関係者の態度は酷いものだった。こういった事故の関係者を含め、社会全体が遺族に寄り添ってくれるような雰囲気があるといいと思う。	男性	20代	15	姉
・誰か責める対象がいると、憎くてどうしようもなくなる。そんな対象がいた時、憎しみをぶつけていいのか、まず最初にあたる壁なんだと思う。トラブルが起こるのもそこだし。冷静な人が傍に一人でもいてくれれば、暴走する自分をとめてくれると思います。	女性	30代	12	妹
・他人事ではなく、もっと周りが気にしたほうが良いと思う。実際同じ様な状況になるとすごい苦勞するから。国も生活ができる位の最低補償をするべき。特に子供には。大人になっても親がいなくて苦勞してる人たくさんいるから。	男性	30代	13	父親
・進学をしやすい状況を作ってあげてほしい。	女性	20代	5	父親
・国の機関でもっと交通事故対策を徹底してほしい。	女性	30代	2	姉
・公的機関の支援が足りないように思う。	女性	20代	14	弟
・加害者から被害者への事故後の情報。今、どういう気持ちなのかを知りたかった。	男性	30代	12	兄
・誰にも知られずに相談できる窓口があれば良いと思う。メールや電話での話を聞いて欲しい。	女性	30代	10	父親

【周囲の人の対応について】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・事故が起きて時間もあまり経っていない時に、周りから色々言われても、きつと聞く耳を持ってないことが多いと思います。とにかく時間をかけて、ゆっくり気持ちを解いていくのが良いのかなと思いました。	男性	20代	13	兄
・支援は全く行き届いていないと思う。父子家庭でも私の家庭のように、病気を持っていて、かなり大変な家庭もあるので、父子家庭のサポート充実や、慰めの言葉がときには「傷つける」言葉になるということも、もっと知らせてほしいと思います。	女性	20代	17	母親
・生活についての説明と気持ちの整理のために話を聞いてほしい。後は時間が経つのを待ってほしい。	男性	20代	16	父親
・周囲の人は、下手な同情をしないで、なるべくいつも通りに接して欲しかった。	男性	20代	14	姉
・見守ってもらっていると前向きになれる。	女性	20代	17	母親
・支援という名の「おせっかい」にならないように配慮すべき。	女性	20代	14	妹
・あまり気を遣い過ぎるのは却ってよくないと思う。	男性	20代	8	妹
・あまり頑張らなくてもいいよと声をかけてあげたい。	男性	20代	11	兄

### 【精神的なサポートの必要性について】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・問題は外からは見えない事の方が多く、元気なようでも心は180度違う顔であることもある。ただ親族がいなくなった事を受け入れられない方に寄り添っているという気持ちが伝わるだけでもありがたいと思う。	女性	30代	5	父親
・父親が亡くなった時などは、お金に関する支援はたくさんあると思うが、同性である母親が亡くなったときはメンタル面で支えてくれる支援があればよいと思った。	女性	30代	15	母親
・心の傷を癒すことは本人次第なので難しいと思いますが、手記を読んだり説法を聞くことなどで、多少なりとも心を穏やかにすることができる環境があれば、と思います。	女性	20代	15	兄
・心からの周囲のサポートは、うわべだけの言葉よりも心に届くし、力になります。どう接していいかわからなくても、わからないなりに接してくれることは後々になって考えると必ずわかります。	男性	20代	12	弟
・経済的には支援を受けることができ、大変だと感じたことはあまりないが、精神面での支援が少なかつたと感じます。10年経つ今も、影響が残っているの、やはり遺された方への心のケアを含めたカウンセリング等の支援がもっとあるといいなと思います。	女性	20代	14	父親
・心のケアはすごく大事だと思う。その後の自分の人生を左右すると思うので、自分の中でしっかり死を受け止めるような配慮が必要だと思う。	女性	30代	10	兄
・子どもよりも、実際は親が受け入れられないケースが多いのではないのでしょうか。カウンセリングを義務にして頂きたいと思います。	女性	20代	12	姉
・遺族へのカウンセリングが必要だと思います。	女性	30代	17	父親

### 【子どもに対するサポートの必要性について】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・子どもを亡くした親、親を亡くした子どものつらさ、サポートの必要性は一般的に知られていることだと思いますが、きょうだいを亡くした人となると、どうでしょうか。私は「両親を支えなければ」と周囲に言われ続け、ごく親しい友人や両親しか辛さをいたわってくれませんでした。実は自分の悲しみと親を気遣う気持ちの板挟みになって、とてもつらいです。この悲しみも、99%は人に言えません。さらに下のきょうだいがいたりしたら、もっとつらかったでしょう。同じ境遇の方がいたら、話を聞き、「あなた1人が親を支えて頑張る必要なんてないんだよ、元気に暮らすだけで、ごきょうだいは喜んでくれるよ」と言ってあげたいです。	女性	20代	17	姉
・特に母親・父親を亡くすということは幼い子どもにとってはすごくインパクトがあり、強烈な出来事であり、少なくとも私は今でもネガティブな意味で影響を受けているという経験から、子どものケアをしっかりしてほしい。	女性	20代	7	父親
・私は小学5年生の時、父を亡くしたけれど、子供なりに現実を受け止めるのに時間がかかった。周りの親せきや友人が気を遣ってくれて、どん底まで悩んだことはなかったけれど、幼い子向けのカウンセリングみたいなものがあったらいいのかなと、今は思う。	女性	20代	11	父親
・自分の時は、まだ幼かったので難しいことはよくわからなかったが、周囲の態度や言動から漠然と不安になったりしていた。幼い子供をサポートできる環境がほしかった。	女性	20代	8	父親
・支援やケアは事故のすぐ後はすごく多かったが、7歳で事故に遭った私が一番苦しんだのはその数年後、いろいろな事が自分で判断できるようになった高校生の頃なので、そのケアをしてあげてほしい。	女性	20代	7	弟
・遺族にとっては突然のことだと思うので、亡くなられた方の死を受け入れるまで時間がかかるかもしれません。また、幼ければ死んだということを理解できないままに育ってしまうので、辛いですが、その事実と向き合ってもらい、将来のためになる支援をしていただきたいと思います。	男性	20代	8	父親
・子供を亡くした親のケアは充実しているが、それを見ているきょうだいのケアを手厚くして欲しいなと思う。姉が亡くなったことよりも、母の落ち込みを見ているほうが辛かった。	女性	20代	15	姉

【遺族同士が交流できる場の必要性について】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・話を聞いてくれる人がいるだけでも救われる人もいます。その際、友達ではなく、同じ境遇の方がいるというだけで安心できるものです。同じ経験をしていない友達に話を聞いてもらっても「その場限りの慰め」にしか感じられなかったという経験がありました。私の時は見つけれなかったもので、そういう人が話だけでも出来る施設、サークルなどがあつたらいいのではと思っています。	女性	20代	6	兄
・残された遺族の方々と交流する機会などがもっとあればいいと思いました。悲しみの念だけを感じて生きていくのは、亡くなった方々も浮かばれないのではと感じたからです。同じような境遇を持った人間同士で支えあうことは必要な機会と感じます。そこから徐々に自身の世界を広げていくきっかけとなるからです。ただし、強制や義務などではなく、あくまで自発的になれるような呼びかけや情報提供を勧めます。	男性	20代	17	弟
・同じ経験をしている人同士で、ただ気持ちを素直に吐き出せる場所があるといいかも。慰め合いなどはあまり欲しくない。	女性	30代	17	姉
・同じような境遇の同世代の人に会える機会があつたらいいかな。共感してもらえれば楽になることもあるから。	女性	20代	5	父親

【支援活動における好事例について】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・父が亡くなって、家族は気持ちがバラバラになり、家族でどこかに出かける事もなくなったため、長期休みの思い出も作ることがなかった。そんな中、交通遺児を対象とした、市での夏休み旅行は良かったと思う。当時は面倒くさい気持ちが大きかったけど、ずっと家でひとりで過ごすくらいなら、数日とはいえ旅行に行けたのは、精神的に良かったんじゃないかと、大人になってから思う。	女性	30代	11	父親
・自分はかなり若い頃に父親を亡くしたので、父親の記憶は殆どありません。また、今まで不自由なく暮らせてもらったので、自分が遺族だと言われてもいまいちピンときません。しかし、そう思わせてくれるくらいに母親が頑張ってきたのだと思うし、また、たくさん支援もしてもらったのだと思うので、そのことにはとても感謝しているし、支援に関しても感謝の気持ちだけです。	男性	20代	3	父親